出土建築材資料集

── 縄文・弥生・古墳時代 ──

第1分冊

北海道・東北・関東・中部・北陸

2005年

小矢部市教育委員会

目　次

例　言
出土建築材資料集成要領
古代の建物と部位名称
北　海　道 …… 1
青　森　県 ……12
秋　田　県 ……20
岩　手　県 ……31
宮　城　県 ……37
山　形　県 ……66
福　島　県 ……93
千　葉　県 ……98
東　京　都 ……107
長野県・山梨県 ……109
新　潟　県 ……150
富　山　県 ……160
石川県・福井県 ……179

例　　言

1．本書は、平成16年12月11日(土)に開催した桜町遺跡出土建築材検討会の資料として作成したものである。

2．資料集は３分冊からなる。第１分冊で、北海道・東北・関東・中部・北陸の資料を掲載している。第２分冊は東海・近畿の資料を、第３分冊は山陰・山陽・四国・九州の資料を掲載している。

3．資料の作成にあたっては、都道府県単位あるいは複数の県を含めた地域ごとに出土建築材を集成したが、今回集めることができなかった地域がある。

4．資料の集成担当者は下記のとおりであり、本文の執筆者は、本文の文頭に記した。

5．図面の縮尺は、図版に記してあり、全体的な統一ははかれていない。

6．本書の作成は、小矢部市教育委員会文化課が行った。

7．本書の作成にあたり、下記の方々・機関の協力を得た。

伊東隆夫・黒崎　直・原田義範・山田昌久・出土木器研究会・富山県埋蔵文化財センター

出土建築材集成作業担当者（第１分冊）

地　区	都道府県・地域	担 当 者	所　　属
北海道 東　北	北海道	三浦　正人	北海道埋蔵文化財センター
	青森県	平山　明寿	青森県埋蔵文化財センター
	秋田県	五十嵐一治	秋田県教育庁払田柵跡調査事務所
	岩手県	荒井　格	仙台市教育委員会
	山形県	高桑　弘美	山形県埋蔵文化財センター
		竹田　純子	山形県埋蔵文化財センター
	福島県	木村　直之	福島県文化財センター白河館
関　東 中　部	千葉県	太田　弘幸	千葉県文化財センター
	東京都	飯塚　武司	東京都埋蔵文化財センター
	長野県・山梨県	町田　勝則	長野県埋蔵文化財センター
		西　香子	長野県埋蔵文化財センター
北　陸	富山県	久々　忠義	小矢部市教育委員会
	石川県・福井県	久田　正弘	石川県埋蔵文化財センター
	新潟県	荒井　隆史	新潟県埋蔵文化財センター

出土建築材資料集成要領

1 目 的

桜町遺跡出土の建築部材の学術的意義をあきらかにするために、日本列島各地から出土している建築部材を集成し比較検討を行う。

2 対 象

原則として、縄文時代から飛鳥時代までの竪穴住居、高床建物、掘立柱建物であって、木材と木材を組み合わせる加工のあるもの。ただし、古代以降であっても必要と認められるものは含む。

3 集成項目

（1）各県の概要　・仕口、部位、用材、樹種、木取りなどを時代ごとに文章にまとめる。

（2）仕口総括表　・ごとに木工技術の種類を時期ごとに一覧表で示す。
多い◎　ある○　不明△

（3）文献一覧

（4）資料集成図　・遺跡名、所在地、時代・時期、文献を上段にいれる。
・縮尺は原則として20分の１とするが、小型品はこれに限らない。いずれも縮尺を入れる。
・図のないものは写真でも可。
・屋根などの組み材は出土状況図を入れる。
・図版の大きさ　横17㎝、縦25㎝。

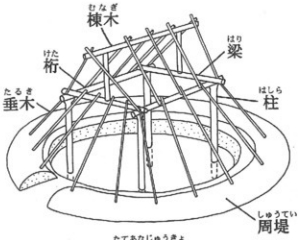
4 時期区分

Ⅰ　縄文時代草創期～早期（15,000～7,000年前）
Ⅱ　縄文時代前期（7,000～5,500年前）
Ⅲ　縄文時代中期（5,500～4,200年前）
Ⅳ　縄文時代後期（4,200～3,300年前）
Ⅴ　縄文時代晩期（3,300～2,500年前）
Ⅵ　弥生時代前期（2,500～2,200年前）
Ⅶ　弥生時代中期（2,200～1,900年前）
Ⅷ　弥生時代後期・終末期（1,900～1,700年前）
Ⅸ　古墳時代前期（1,700～1,600年前）
Ⅹ　古墳時代中期（1,600～1,500年前）
ⅩⅠ古墳時代後期～飛鳥・藤原時代（1,500～1,300年前）
ⅩⅡ古代以降

5 建築材、仕口・継手の種類

Ⅰ単体出土木構材（ⅰ仕口・継ぎ手付木材、ⅱ軸組部材・面構成材、ⅲ特定部位材）
Ⅰ－ⅰA板接ぎ（突付け接ぎ、本さね接ぎ、羽打接ぎ、ひぶくら接ぎ、相欠き接ぎ、
屋い接ぎ、ちきり接ぎ、その他）
B仕口（大根ほぞ、平ほぞ、重いほぞ、二枚ほぞ、道きりほぞ、目地ほぞ、
扇ほぞ、蟻ほぞ、かまほぞ、その他）
C継手（貫通穴、非貫通穴、欠込み、縄掛け溝、括れ、その他）
Ⅰ－ⅱA柱材（又受け直柱、凹受け直柱、仕口付き高床柱、その他）
B横架材（梁、桁、大引、その他）
C壁床材（壁板、床板、竪穴堰材、桟材、その他）
D屋根材（サス材、垂木材、母屋材、葺き板、その他）
Ⅰ－ⅲ特定部位材（扉関連材、鼠返し、窓材、梯子、その他）
Ⅱ集合施設材（ⅰ埋没木組施設、ⅱ遺構内炭化残存木組）
Ⅱ－ⅰ埋没木組施設（集合建築材、柱根群、非家屋材（築・水槽・護岸施設）、その他）
Ⅱ－ⅱ遺構内残存木組（住居内集合炭化材、その他）

古代の建物と部位名称



【竪穴住居】

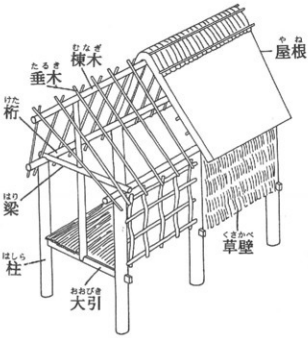
竪穴住居　地面を掘り下げて床面とし屋根をかける。

高床建物　床が地面から離れた建物。柱が屋根まで達する通柱式と束柱上に台輪を置いて別の柱で屋根を支える束柱式があるとされる。

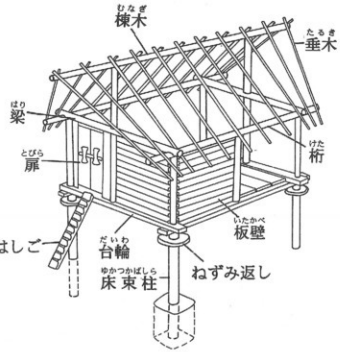
掘立柱建物　柱を地面に埋め込んだ平地式建物。

礎石建物　柱を礎石にのせた建物。

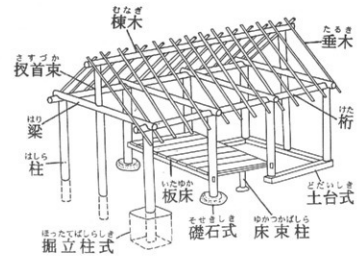
土台建物　土台に柱をのせた建物。



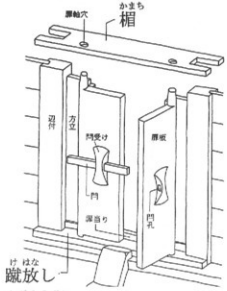
【高床建物（通柱式）】



【高床建物（束柱式）】



【掘立柱建物・礎石建物・土台建物】



扉の部位（奈良文化財研究所1993より）

北海道の概要

三浦正人

北海道において建築材を検出した縄文時代の遺跡は、後述する火災住居跡を除くと、中期の石狩市紅葉山49号遺跡（市教委2003）、後期の小樽市忍路土場遺跡（道埋文1989）・余市町安芸遺跡（町教委2003）の3遺跡しかない。当集成の主旨に沿って続縄文期～擦文期まで範囲を広げると、続縄文期の厚岸町下田ノ沢遺跡（町教委1972）・江別市江別太遺跡（市教委1979）、擦文期の千歳市美々8遺跡（道埋文1996）・同ユカンボシC15遺跡（道埋文2000・2001a）・同市ウサクマイN遺跡（道埋文2001b）・札幌市K39遺跡北18条地点（市埋文2001）・同北大構内（サクシュコトニ川遺跡）（北大1986）・奥尻町青苗遺跡（町教委ほか1979）・旭川市錦町5遺跡（市教委1984）などがあげられる。

このうち忍路土場遺跡は、水辺の作業場において、作業台としての木組・仮小屋などの建材が数多くの木製品とともに検出され、台地上の巨木柱穴に対応するような巨木建材も発見されている。安芸遺跡は、地域的にも近い忍路土場遺跡と同時期同種の木製品群が発見されており、建材も伴っている。

また、紅葉山49号遺跡・江別太遺跡・サクシュコトニ川遺跡・錦町5遺跡は、簗状などの漁獲施設が主体の遺跡である。紅葉山49号遺跡では柵状の木組施設の複合体が見られ、江別太遺跡やK39遺跡北18条地点は護岸施設も検出されている。

美々8遺跡・ユカンボシC15遺跡・K39遺跡北18条地点は擦文期の代表的な低湿性遺跡で、アイヌ文化期にかけての多数の木製品が検出されており、中には建材も多く含まれている。

出土した建築材の概要は、

＊**紅葉山49号遺跡**：漁獲施設として粗くブドウ蔓で編まれた簀状杭列（図1－1～2）がある。さらに四分の一に割いた枝材などを使い、交叉部を縛って結合した柵状構造物（図1－3～5）も32枚確認されている。

＊**忍路土場遺跡**：遺構には低湿部の作業場や台地上の巨木柱穴などがある。対応する木材は、作業場内の建築材や柵状遺構・木組遺構があり、巨木柱や巨木建材も見られる。台地上には竪穴住居跡もあり、作業場内の建築材や遺構はこの構造材の転用も考えなければならない。建築材の内訳は、柱（図3－1～11）33本、建物の大枠を組む梁・桁材（図4）や垂木（図3－12～15）など93本、股木杭（図6－1～4）5本、大小の杭（図4－5～11）89本、20本以上の巨木建材（図5）である。ほとんどが丸木材で、半割材・分割材も少数ある。柱や巨木柱には、向かい合う突起と平坦面を削り込んだもの（図3－1・図5－3）があり、これに組み合う桁材には端部付近に全周の削り込みとそれにより削り出された頭部を持つもの（図4－1～3・図5－2）が、建材・巨木建材ともにある。梁材と思われるものには削り込んで細身にした長い突起をもつもの（図4－4～5）がある。また巨木建材としては前述の組み合うもののほか、丸木・半割の巨木柱と思われるもの（図5－4～5）や、多数の抉りの入る桁と見られる材（図5－1）もある。87本の材からなる柵状遺構（図6－12～22）は、格子状に枝材を組んだ構造物で交叉部の緊縛は植物繊維でなされている。この枝材は小枝落としはされていたが樹皮は残っていた。建材の再利用材も混在しており、垂木材（図3－15）や頭部を削り出した抉りの入る桁材（図6－12～13）なども見られる。作業小屋や物干し棚のような施設であろうか。木組遺構（図6－23～33）は作業場7ヶ所中4ヶ所にあり、縦横格子状に組まれた上下3段の中太～細材で構成される作業台と思われる。これらも枝払いと端部の加工はあるが、樹皮の残るものが多い。交叉部に抉り込みはなく、植物繊維で緊縛結合されている。

＊**安芸遺跡**：遺構はないが、丸木材の柱や杭（図2－4～7）・股木杭（図2－8）のほか、端部の結合部に全周を削り込んで頭部を作出した桁材（図2－1）や端部に段を削り込んだ梁材（図2－2）、結合部の抉りの入った部材（図2－3）などがある。角孔のあけられた板材（図2－9～10）も建築材と考えられている。

＊**下田ノ沢遺跡**：河川に対応する何らかの施設の痕跡で、大小８本の突き刺さった丸木杭（図７－６～13）からなる。

＊**江別太遺跡**：杭が河中に直線的に並ぶ構造の漁獲施設で、同時に出土したヤマブドウやヤナギがこの施設の構築材と考えられる。171 本の杭（図７－１～５）は丸木杭 137 本、割杭・芯持材杭 34 本である。

＊**美々８遺跡**：擦文～近世の低湿性遺跡で、擦文期では川に向かう斜面の建物跡や杭列の 38 本の杭（うち丸木杭 36 本）のほか、丸木杭や柱の断片も出土している。その約半数はコナラ属材である。

＊**ユカンボシ C15 遺跡**：擦文～近世の低湿性遺跡で、擦文期では杭列の丸木杭 22 本（約半数トネリコ属）のほか、柱材 60 本、梁・桁や垂木など建物の大枠を組むと思われる建材 190 本、屋根・壁などに組み込む横架材などの部材 91 本と３組、柵や棚の支柱と思われる股木杭 51 本、大小の丸木杭 197 本、割杭２本などが出土している。梁・桁材や部材には結合部の抉り込みが入るものもある。全体でトネリコ属材が多く、小型のものではヤナギ属・ハシドイ属も多くなる。

＊**ウサクマイ N 遺跡**：河道内の小規模施設で、４本の割杭と７本の丸木杭で構成されている。

＊**K39 遺跡北 18 条地点**：２つの層から各々、護岸・船着場などの河川遺構と漁獲施設と思われる杭列が確認されている。前者は丸木杭 64 本・割杭２本・股木杭２本（42 本がヤナギ属）や支柱や割材からなる木組で構成される。後者は割杭 38 本・丸木杭 10 本（38 本がヤナギ属）で構成される密な杭列で、一部の材が水平方向に組まれている（図７－16）。付近には貯木場と見られる 14 点の割杭の集積があった。

＊**K39 遺跡北大構内（サクシュコトニ川遺跡）**：川幅いっぱいに造られた構築物（図７－15）で、アイヌの漁獲施設「テシ」に似る。川底に打ち込まれた杭とそれに対応する横木が骨格構造で、これに 1mほどに切断したヤナギ属の枝材を束ねたものを詰め込んでいる。杭は 62 本が割杭、33 本が丸木杭。横木は割材 49 点・丸木材 16 点で、杭や住居建材の転用と考えられる切込み等の加工材も６点あった。

＊**青苗遺跡**：60×40 cmの方形の湧水溜め施設で、杭と平板で構成されている。

＊**錦町５遺跡**：川に掛け渡された堰状の構築物（図７－14）で、漁獲施設と考えられる。丸木柱・丸木杭を主体として枝材などが絡み、長さ 20m以上、幅 12mの範囲に密集しているが、緊縛の痕跡はない。

また、建築材の一部あるいは組み合わせが炭化材として検出される火災住居跡は、これを 1994 年にまとめた大島直行によれば（大島 1994）、意図的な放火を主原因として縄文中期後半から後期に圧倒的に多いという。また、火災住居の認定は、「床面や覆土中に炭化構造材や屋根の被覆材の炭化物」と「焼土ブロックあるいは赤化した床面や壁面」が確認されることと規定している。その後 10 年間をみても検出される時期的な傾向は変わらず、火災住居跡が検出された遺跡は合わせて約 100 遺跡を数える。しかし建築材の形状や使用位置がわかる遺構は少ない。比較的炭化材の残りの良い例はやはり中期と後期に多く、中期では函館市サイベ沢遺跡８号住居址（市教委 1986）、同市桔梗２遺跡 KH－14 や KH－16（道埋文 1988a）、同市権現台場遺跡１号住居址（市教委 1981）、登別市千歳６遺跡 SR25 竪穴・WI65 竪穴（市教委 1982）、苫小牧市美沢 10 遺跡 H－５（道埋文 1987a）、同市美沢 11 遺跡 H－26（道埋文 1988b）、千歳市末広遺跡ⅡH－53（市教委 1985）、釧路市貝塚町１丁目遺跡第３号住居跡（市博 1974）、標津町伊茶仁チシネ第３竪穴群 A 地点 11 号住居跡（町教委 1990）などがあげられる。後期では、木古内町新道 4 遺跡 CH－1（道埋文 1987b）・GH－4・DH－1・DH－3（道埋文 1988c）、南茅部町磨光 B 遺跡 H－2（町教委 1996）、門別町エサンヌップ４遺跡 G－14 竪穴（町教委 1987）、千歳市末広遺跡ⅡH－12（市教委 1982）、釧路市貝塚町１丁目遺跡第 10 号住居跡（市博 1974）などが代表例である。最近、新聞発表のあった斜里町来運１遺跡（北海道新聞 2004.9.11）では、縄文中期の壁立式平地住居の格子状の壁材が焼け落ちて倒れた状態で検出されているという（図２－11）。

大島の指摘するような、縄文時代の意図的な放火をアイヌ文化の「カス・オマンデ」（仮小屋送

り）につながると理解する（大島 1999）うえでは、続縄文期・オホーツク期・擦文期の火災住居跡も見逃せない。これらの火災住居跡ではオホーツク期の羅臼町松法川北岸遺跡(町教委 1982)、擦文期の常呂町栄浦第二遺跡（町教委 1995）・釧路市北斗遺跡（市教委 1992）など木製品・繊維製品が多く伴出する例もあり、建築材にまで研究の手が伸びないのが現状である。

その中にあって三野紀夫の樹種同定からの研究（三野 1994・1996 など）は注目される。三野の同定・研究などから住居に使用された樹種の組成をみてみると、縄文早期では帯広市八千代 A 遺跡で 15 軒分の同定 24 点中 11 点がトネリコ属、佐呂間町 HS－06 遺跡 3 号竪穴でモミ属が検出されている。前期では南茅部町大船 C 遺跡火災住居跡の柱の 95％がクリ材であったと報告されているほか、余市町フゴッペ貝塚 FH－29 で 81 点中 53 点がクワ属・20 点がシナノキ属という。中期では七飯町上藤代 7 遺跡 HP－1 で 21 点中クリが 20 点、函館市石川 1 遺跡 H－5 で 93 点中クリが 90 点、同市桔梗 2 遺跡 KH－14 で 175 点中クリが 137 点・トネリコ属が 14 点であった。他に恵庭市中島松 5 遺跡 6 号住居跡では 3 点がトネリコ属材、門別町エサンヌップ 3 遺跡 H－10・11 では 19 点中ハンノキ属 6 点・トネリコ属 3 点・ニレ属 3 点、標津町伊茶仁チシネ第 3 竪穴群 11 号竪穴では 22 点中トネリコ属 13 点・ヤナギ属 5 点という内容であった。後期では木古内町新道 4 遺跡 CH－1・2 で 472 点中トネリコ属 290 点・イチイ 52 点・CH－1 のみでカバノキ属 22 点であり、南茅部町磨光 B 遺跡では 1～4 号竪穴の 33 点でカバノキ属 7 点・トネリコ属 6 点・クリ 5 点・ニレ属 5 点・カエデ属 4 点と各種材を使用していることがわかった。また低湿性遺跡の忍路土場遺跡では、およそ属レベルまで同定しえたもの 56 点中トネリコ属 14 点・コナラ属 13 点・ハリギリ 4 点・ニレ属 4 点・クリ 1 点・カバノキ属 1 のほかモミ属が 19 点あった。安芸遺跡では 13 点中コナラ属 5 点・トネリコ属 2 点・キハダ属 2 点・ハリギリ 1 点・モミ属 1 点という結果が得られている。

以上の内容からは縄文中期の道南部のクリ材の使用度の高さが際立っている。クリ材への固執なのか、産出量が多いことの現われなのか検討が必要である。他では汎用材であるトネリコ属（主にヤチダモ）やモミ属（主にトドマツ）に特徴がある。大型材・小型材や使用部位などによる樹種の使い分けに注意を払う必要があろう。続縄文期では江別太遺跡の漁獲施設の杭等で 131 点中ヤナギ属 67 点・トネリコ属 46 点、常呂町栄浦第一遺跡の住居群ではヤナギ属・トネリコ属・コナラ属が確認されている。

今年度、道埋文が調査している森町森川 3 遺跡の縄文前期の大型住居跡からは、深さ 1m以上の壁面全周から等間隔で壁材の痕跡（丸木材か半割材）が検出されている。この材で板を固定していたものと考えられる。

北海道にはもう 1 例、注目すべき出土品がある。八雲町栄浜 1 遺跡の遺物廃棄で形成された盛土の縁から、縄文時代中期中葉の土器とともに発見された家形石製品がそれで、高さ 13.8 ㎝・長さ 14.9 ㎝・幅 11.26 ㎝の軽石製である。調査者の三浦孝一によれば（三浦 2000）、入母屋構造の屋根と草か茅の壁をもった竪穴住居を模した石製品で、「壁もち住居形石製品」とすべきものとされる。同遺跡で検出された住居跡とも比較検討されている。

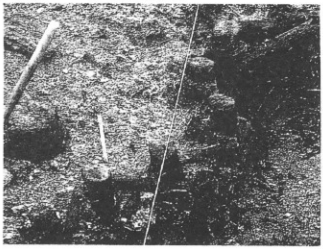
八雲町栄浜 1 遺跡「壁もち住居形石製品」（八雲町教育委員会 1998『栄浜 1 遺跡Ⅳ』）

文献

石狩市教育委員会　2003　『石狩紅葉山49号遺跡低湿地部発掘調査概要報告（CD－ROM版）』
北海道埋蔵文化財センター　1989　『小樽市忍路土場遺跡・忍路5遺跡』
余市町教育委員会　2003　『余市町安芸遺跡』
厚岸町教育委員会　1972　『厚岸町下田ノ沢遺跡』
江別市教育委員会　1979　『江別太遺跡』
北海道埋蔵文化財センター　1996　『美沢川流域の遺跡群Ⅹ㈵』
北海道埋蔵文化財センター　2000　『千歳市ユカンボシC15遺跡(3)』
北海道埋蔵文化財センター　2001a　『千歳市ユカンボシC15遺跡(4)』
北海道埋蔵文化財センター　2001b　『千歳市ウサクマイN遺跡』
札幌市埋蔵文化財センター　2001　『K39遺跡第6次調査』
北海道大学埋蔵文化財調査室　1986　『サクシュコトニ川遺跡1・2』
奥尻町教育委員会ほか　1979　『奥尻島青苗遺跡　図版編』
旭川市教育委員会　1984　『錦町5遺跡』
大島直行　1994　「縄文時代の火災住居－北海道を中心として－」『考古学雑誌』80－1
函館市教育委員会　1986　『サイベツ遺跡Ⅱ』
北海道埋蔵文化財センター　1988a　『函館市桔梗2遺跡』
函館市教育委員会　1981　『権現台場遺跡発掘調査報告書』
登別市教育委員会　1982　『札内台地の縄文時代集落址－北海道登別市千歳6遺跡発掘調査報告書－』
北海道埋蔵文化財センター　1987a　『新千歳空港用地内埋蔵文化財発掘調査報告書第4分冊　ペンケナイ川流域の遺跡群Ⅰ』
北海道埋蔵文化財センター　1988b　『『新千歳空港用地内埋蔵文化財発掘調査報告書第3分冊　ペンケナイ川流域の遺跡群Ⅱ』
千歳市教育委員会　1985　『末広遺跡における考古学的調査(続)』
釧路市立郷土博物館　1974　『釧路市貝塚町1丁目遺跡調査報告』
標津町教育委員会　1990　『伊茶仁チシネ第3竪穴群遺跡』
北海道埋蔵文化財センター　1987b　『木古内町建川2・新道4遺跡』
北海道埋蔵文化財センター　1988c　『木古内町新道4遺跡』
南茅部町教育委員会　1996　『磨光B遺跡』
門別町教育委員会　1987　『エサンヌップ4遺跡』
千歳市教育委員会　1982　『末広遺跡における考古学的調査(下)』
北海道新聞　2004.9.11　記事「平地住居で初　壁材が出土」
大島直行　1999　「縄文時代火災住居の意味」『考古学ジャーナル』447
羅臼町教育委員会　1982　『松法川北岸遺跡』
常呂町教育委員会　1995　『栄浦第二遺跡・第一遺跡』
釧路市教育委員会　1992　『釧路市北斗遺跡Ⅱ』
三野紀夫　1994　「先史時代における木材の利用」『北海道開拓記念館研究紀要』22
三野紀夫　1996　「先史時代における木材の利用(2)」『北海道開拓記念館研究紀要』24
三浦孝一　2000　「壁もち住居形石製品からみた竪穴住居」『季刊考古学』73

遺跡名：紅葉山 49 号遺跡　　所在地：北海道石狩市　　縄文時代中期

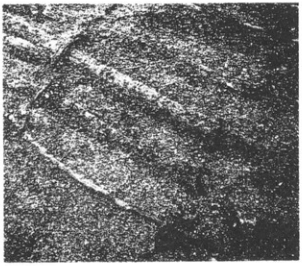
1



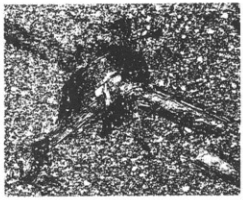
2

1・2　簀状杭列（漁獲施設）

3　柵状構造物出土状況



4　柵状構造物　拡大

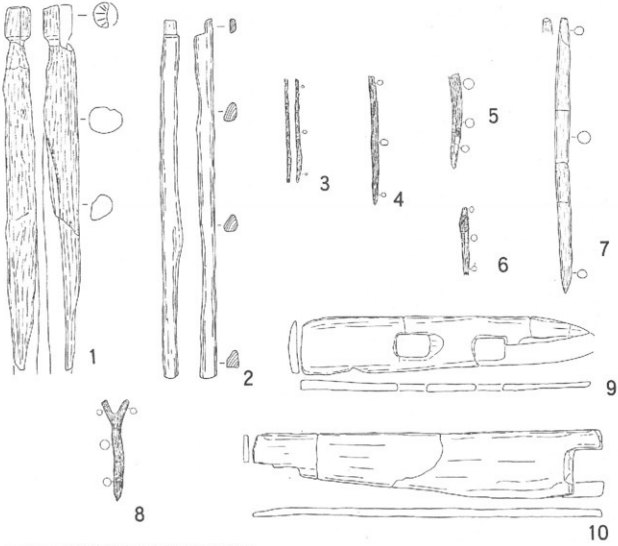


5

柵状構造物緊縛結合部

図 1　石狩市 紅葉山 49 号遺跡

遺跡名：安芸遺跡　　所在地：北海道余市町　　縄文時代後期　1〜10



0　1m

1　桁材　長190cm　径20cm
2　梁材　長188cm　径10cm
3　部材　長53cm　径1.8cm
4〜7　杭　4 長67cm　径3.8cm
8　股木杭　長53cm　径4.2cm
9・10　有孔板材　10 長182cm　厚さ8cm
3・9　トネリコ属　　8　ハリギリ
4・7　コナラ属　　10　ニレ属

斜里町で見つかった縄文中期の壁立式住居の壁材

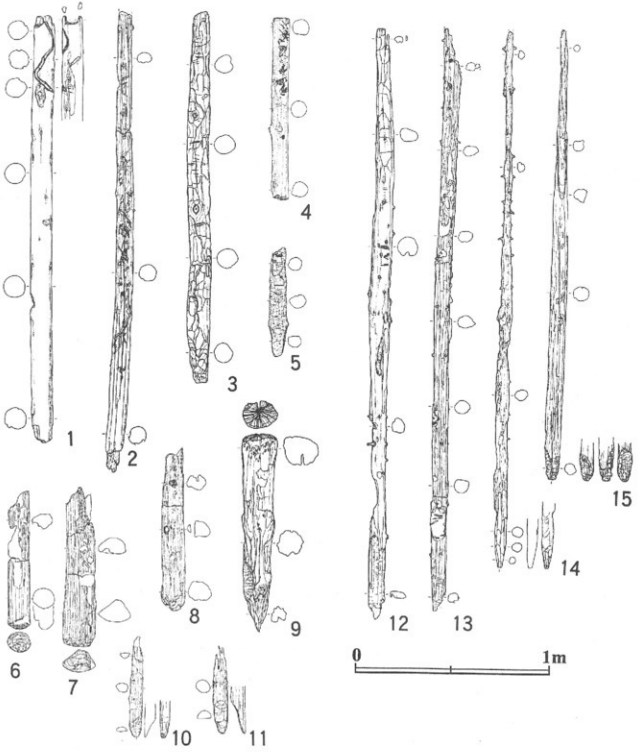
11

遺跡名：来運1遺跡
所在地：北海道斜里町
縄文時代中期 火災住居

11

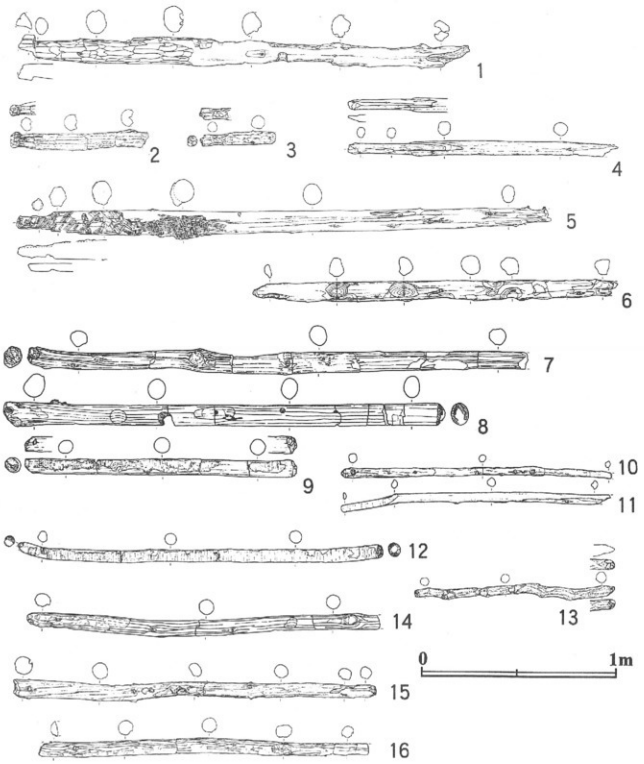
図2　余市町 安芸遺跡・斜里町 来運1遺跡

遺跡名：忍路土場遺跡　　所在地：北海道小樽市　　縄文時代後期



1～11　柱　1 長 225.5 cm　径 11.6 cm
12～15　垂木　12 長 312.9 cm　径 11.9 cm
1・4・12・14・15　モミ属　6　カバノキ属　13　トネリコ属

図3　小樽市 忍路土場遺跡（1）

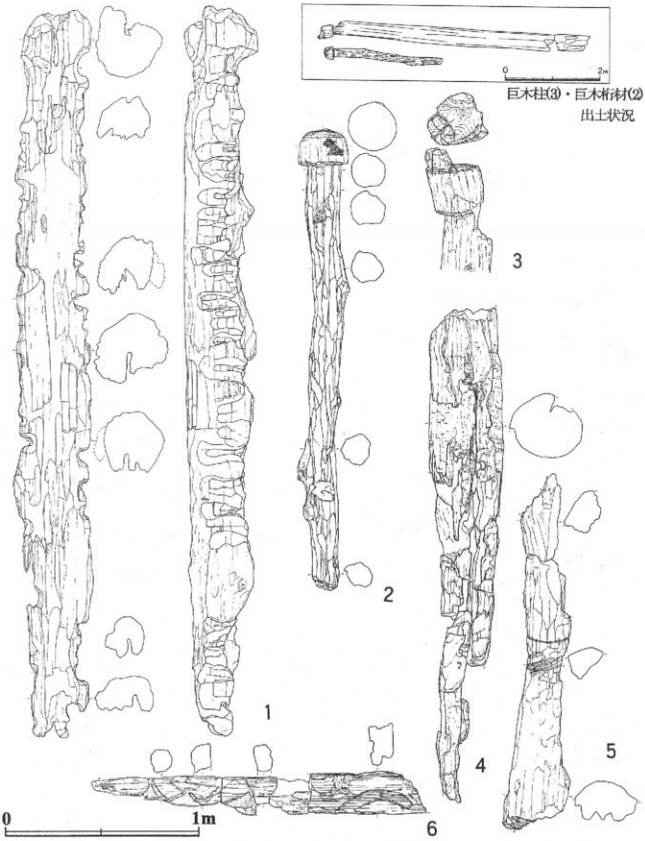


1～3　桁材　1 長 235.5 cm　径 13.8 cm　　4・5　梁材　5 長 278.7 cm　径 12.5 cm

6　棟木？　長 191.3 cm　径 11.7 cm　　7～16　桁材・梁材・部材　12 長 189.0 cm　径 7.4 cm

1・4・5・6・15　モミ属　2　ハリギリ　3・11　トネリコ属　10　コナラ属

図4　小樽市 忍路土場遺跡 (2)

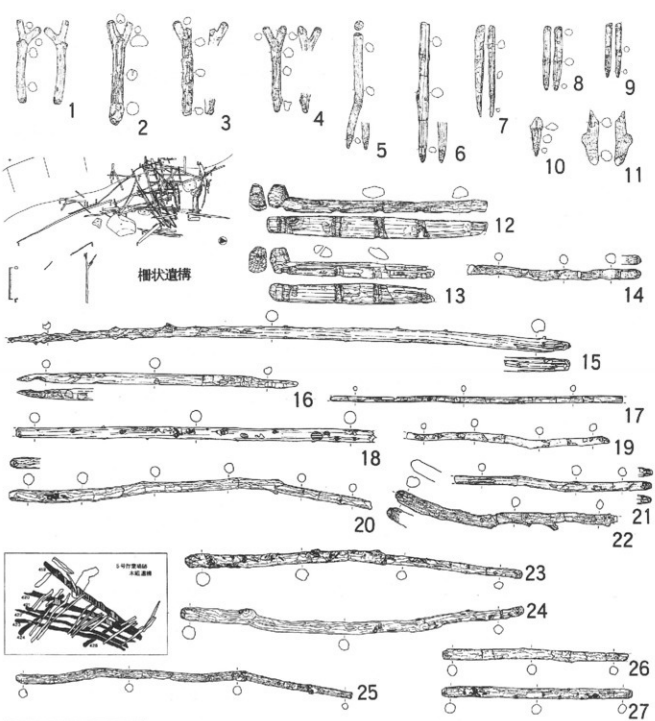


1・2　巨木桁材　1 長 388.6 cm　径 38.8 cm　2 長 241.7 cm　軸径 20.1 cm

3〜5　巨木柱　3 長約 6m　軸径 25.4 cm　6　巨木角材(彫刻入り)　長 173.0 cm　幅 22.5 cm

1・2・3　コナラ属　5・6　トネリコ属

図5　小樽市 忍路土場遺跡 (3)

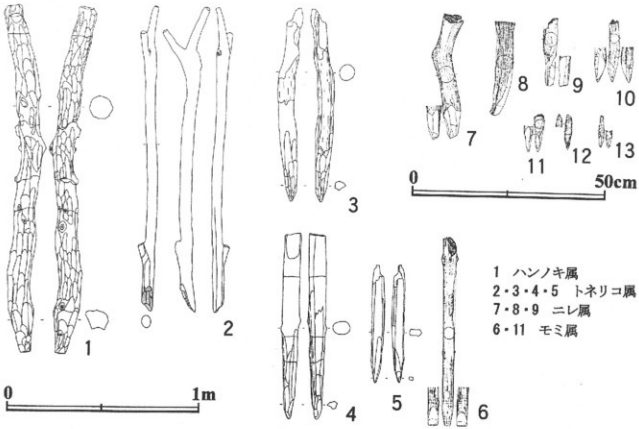


1～4　股木杭　2長55.0cm　径7.4cm　　5～11　杭　5長60.9cm　径5.2cm
12～22　柵状遺構構成材　12・13　桁材転用材　12　長114.2cm　幅11.5cm　　15　垂木転用材　長298.0cm　径7.1cm
23～33　木組構成材　23　長174.6cm　径7.7cm　　28　長138.5cm　径5.6cm
1・2　コナラ属　　3・4・15・24　トネリコ属　　12・13　ニレ属　　10・16・18・31　モミ属

図6　小樽市 忍路土場遺跡 (4)

遺跡名：江別太遺跡　　縄文文化期
所在地：北海道江別市　　1～5

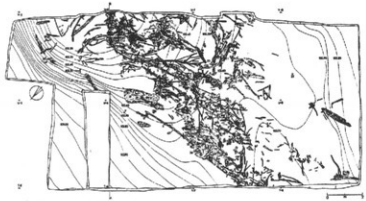
遺跡名：下田ノ沢遺跡　　縄文文化期
所在地：北海道厚岸町　　6～13



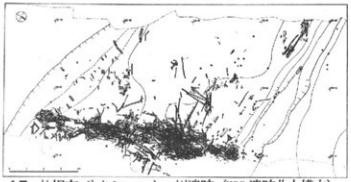
1　ハンノキ属
2・3・4・5　トネリコ属
7・8・9　ニレ属
6・11　モミ属

1　柱　長184㎝　径12㎝　　2　股木杭　長160㎝　径6㎝
3～13　杭　6 長97㎝　10長16㎝

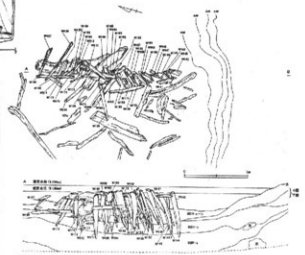
擦文文化期の漁獲施設



14　旭川市 錦町5遺跡



15　札幌市 サクシュコトニ川遺跡（K39 遺跡北大構内）



16　札幌市 K39 遺跡 北18条地点

図7　縄文・擦文文化期

青森県の概要

平山明寿

青森県と聞いて思い浮かぶ建築物といえば、三内丸山遺跡の大型掘立柱建物跡ではなかろうか。柱穴規模径・間隔のみならず、柱穴内に径が1mもある木柱が残存しており、そのような規模の建物の存在は今までの縄文時代の建物のイメージを遥かに凌ぐものであった。しかし、その木柱は根元部分しか遺存していなかったため、その加工や本来あったであろう木組は残念ながら知ることは出来ない。縄文時代だけでなく、青森県内において建築材の出土例はほとんどないのが実態である。しかし、焼失家屋も含め、建材や集積材の検出されたものを集め、時期ごとにまとめてみたい。なお、焼失家屋は、建材と思われる炭化材が検出・図化されているもの、もしくは、それらが記述されているものを集成の対象とした。ただ、寡聞な筆者であるため多くの遺漏があることと思う。なにとぞご容赦いただきたい。

縄文時代早期

この時期の建築材の出土は今のところ確認されていないが、焼失家屋が2軒検出されている。表館（1）遺跡の第108号竪穴住居跡と畑内遺跡の第141号竪穴住居跡で、ともに早期末葉の時期が考えられる。炭化材の規模・形状については記述がないため、詳細は不明であるが、表館（1）遺跡ではコナラ材と同定されている。

縄文時代前期

この時期の建築材の出土は今のところ確認されていない（向田(18)遺跡から建築部材と思われる加工材が出土しているが、実測図が掲載されていないため詳細は不明である）。埋没木組み施設では、木組遺構が岩渡小谷遺跡から検出されている。また、三内丸山遺跡からは、道路跡の土留め用と考えられる杭列が検出されている。

焼失家屋は、青森市内の2遺跡で1軒づつ検出されている。野木遺跡の第619号竪穴住居跡と新町野遺跡の第23号竪穴住居跡が該当する。

縄文時代中期

建築材は、木柱が三内丸山遺跡の大型建物跡や、第11496・11497ピットなどの柱穴中から検出されている。また、富ノ沢（2）遺跡の第381号竪穴住居跡や弥栄平（1）遺跡の第12号竪穴住居跡からも出土している。これらの木柱はクリ材であること、また、表面が炭化しているといった特徴がある。しかし、残存部位が根元のみであるため、全体の形状や加工については不明である。他に、近野遺跡では水さらし場遺構が検出されている。

焼失家屋は、この時期のものが一番多い。炭化材の形状は丸太材状や板状のものがあり、厚さは5cm程度から最大で20cmほど、長さは最大で100m前後である。また、笹ノ沢（3）遺跡の第34号竪穴住居跡や富ノ沢（2）遺跡の第85号・第216号からは、竪穴住居跡の壁際から板状材が直立した状態で検出されている。これらは竪穴住居跡の竪穴部の壁面に据え付けられた腰板と考えられる。これらの炭化材もほとんどがクリ材である。

その他に炭化材が検出された焼失家屋は、笹ノ沢（3）遺跡の第11・19・23・35・38号、重地遺跡第10号、畑内遺跡第126号（以上前葉）、三内丸山（6）遺跡の第31・57号、近野遺跡代16号、富ノ沢（2）遺跡の第48・348号、三内沢部遺跡江第1号（以上中葉）、近野遺跡第9A号（以上後葉）、三内沢部遺跡第9号、風張（1）遺跡第110号、丹後谷地遺跡第42号、三内遺跡J－5・J－8竪穴住居跡（以上末葉）があげられる。

縄文時代後期

建築材と思われるものが、三内丸山（6）遺跡の埋没沢から出土しているが、部材の一部分であるため、全体の形状や加工は不明である。

焼失家屋では、岩渡小谷（4）遺跡の第9号竪穴住居跡からは、垂木と思われる角材が出土している。また、鶏窪遺跡第1号竪穴住居跡では板状・棒状の炭化材が検出されている。鶏窪例では、樹種はクリ・コナラと同定されている。その他に炭化材の形状が分かる当該期の焼失家屋には、丹後谷地遺跡の第15・第37号（以上前葉）・第17号・第18号（以上中葉）・第46号竪穴住居跡（後葉）のほか、風張（1）遺跡第51号・第100号竪穴住居跡（後葉～末葉）がある。

縄文時代晩期

是川中居遺跡からは、沢の調査で建築材が1本出土している。また、同じ沢からは、水さらし場遺構や屋根材が出土している。

焼失家屋は以外と少ない。有戸鳥井平（7）遺跡のASI1とBSI11が前葉、牛ヶ沢（3）遺跡の第5号竪穴住居跡が中葉の焼失家屋である。

弥生時代

本県では、弥生時代の遺跡の調査例が少ないうえ、建築材の出土例もないことから、時期別ではなく、まとめて記述することにする。

弥生時代の焼失家屋は、前期では牛ヶ沢（4）遺跡第7号竪穴住居跡と畑内遺跡第151号竪穴住居跡が、中葉では畑内遺跡第149号竪穴住居が該当する。

古墳～飛鳥・藤原時代

本県における古墳時代の遺跡はほとんどなく、調査例も極端に少ないため、空白の時代となっている。その中で、田向冷水遺跡では竪穴住居跡が検出されている。そのうち1軒は焼失家屋で、床面から炭化材が多く検出されている。時期は5世紀末から6世紀初めと考えられる。

飛鳥・藤原時代である7世紀の遺跡は、土器編年の検討によって過去の調査事例が繰り下がって増加する可能性があるため、ここでは確実な例として酒美平遺跡の第8・11・35号竪穴住居跡をあげておく。炭化材は壁と直行したり平行して出土していることから、前者は垂木と考えられる。材は割材・丸太材で、幅は10～15㎝・長さ100㎝前後である。炭化材のほとんどはコナラ節であった。出土した土器の特徴から、これらの住居跡の時期は7世紀中葉から後葉と考えられている。

古代

奈良時代以降は焼失家屋が爆発的に増加するが、省略させていただく。

まとめ

青森県では、木製品そのものの出土例がほとんどなく、他の遺物に比べ木・木製品の意識があまりないという状況が前提として存在している。そのため、建築材として報告されているものは少ない。また、その根拠も加工からではなく、大きさから推定しているものがほとんどである。一部には柱が検出さているが、遺存しているのが根元のみであるため、木組みのための加工（仕口・継ぎ手）は分からない。木製品も単独で出土する例がほとんどない。ただ、近年は沢部を調査する事例が増えたため、沢の調査により、木組み・水さらし場といった遺構や大量の木製品が検出される例が僅かではあるが増えつつある。

県内の遺跡で一般に建築材として検出されるものは焼失家屋から検出された炭化材である。検出数49軒のうち、そのほとんどである43軒が縄文時代のものである。時期は縄文時代早期末から検出されているが、検出例が増えるのが中期中葉以降である。炭化材の中には腰板と思われるものがある。樹種はクリ材が多い。ただ、炭化材は形状や大きさなどの詳細な観察や記述が去れないことが多く、建材の状況はあまりよくわからない。住居跡の内側から外側に放射状に広がり、垂木と思われるものはあるのだが、柱と考えられるものの検出はない。

以上のように、青森県内の建築材およびその木組みにための加工（仕口・継ぎ手）の状況は、正直不明であるのが現実である。

青森県の建築材仕口総括表

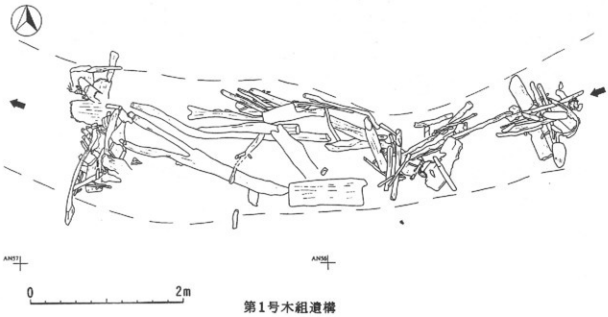
	単体出土木構部材 軸組部材・面構成材	集合施設材			
	柱　材	埋没木組施設		遺構内残存木組	
	その他	集合建築材	その他	住居内集合炭化材	その他
Ⅰ　縄文時代草創期～早期			○	○	
Ⅱ　縄文時代前期			○	○	
Ⅲ　縄文時代中期	○			◎	
Ⅳ　縄文時代後期	○			○	
Ⅴ　縄文時代晩期	○	○	○	○	
Ⅵ　弥生時代前期				○	
Ⅶ　弥生時代中期				○	
Ⅷ　弥生時代後期～古墳時代初頭					
Ⅸ　古墳時代前期					
Ⅹ　古墳時代中期					
ⅩⅠ　古墳時代後期～飛鳥・藤原時代				○	

引用参考文献

青森県教育委員会　1978『青森市三内遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第 37 集
青森県教育委員会　1978『三内沢部遺跡発掘調査報告書』青森県埋蔵文化財調査報告書第 41 集
青森県教育委員会　1979『近野遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第 47 集
青森県教育委員会　1983『韓窪遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第 76 集
青森県教育委員会　1984『牛ヶ沢（3）遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第 86 集
青森県教育委員会　1986『弥栄平（1）遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第 98 集
青森県教育委員会　1989『表館（1）遺跡Ⅲ』青森県埋蔵文化財調査報告書第 120 集
青森県教育委員会　1996『三内丸山遺跡Ⅳ』青森県埋蔵文化財調査報告書第 205 集
青森県教育委員会　1997『三内丸山遺跡Ⅶ』青森県埋蔵文化財調査報告書第 229 集
青森県教育委員会　1998『三内丸山遺跡ⅩⅠ』青森県埋蔵文化財調査報告書第 251 集
青森県教育委員会　1998『三内丸山遺跡ⅩⅡ』青森県埋蔵文化財調査報告書第 252 集
青森県教育委員会　2000『新町野遺跡Ⅱ』青森県埋蔵文化財調査報告書第 275 集
青森県教育委員会　2000『三内丸山（6）遺跡Ⅱ』青森県埋蔵文化財調査報告書第 279 集
青森県教育委員会　2000『野木遺跡Ⅲ』青森県埋蔵文化財調査報告書第 281 集
青森県教育委員会　2000『岩ノ沢平遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第 287 集
青森県教育委員会　2000『笹ノ沢（2）・（3）遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第 305 集
青森県教育委員会　2001『三内丸山（6）遺跡Ⅲ』青森県埋蔵文化財調査報告書第 307 集
青森県教育委員会　2001『畑内遺跡Ⅶ』青森県埋蔵文化財調査報告書第 308 集
青森県教育委員会　2001『三内丸山遺跡ⅩⅧ』青森県埋蔵文化財調査報告書第 309 集
青森県教育委員会　2002『畑内遺跡Ⅷ』青森県埋蔵文化財調査報告書第 326 集
青森県教育委員会　2002『三内丸山（6）遺跡Ⅳ』青森県埋蔵文化財調査報告書第 327 集
青森県教育委員会　2002『三内丸山遺跡ⅩⅩ』青森県埋蔵文化財調査報告書第 338 集
青森県教育委員会　2003『畑内遺跡Ⅸ』青森県埋蔵文化財調査報告書第 345 集
青森県教育委員会　2003『有戸鳥井平（7）畑内遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第 348 集
青森県教育委員会　2003『岩渡小谷（3）・（4）遺跡Ⅱ』青森県埋蔵文化財調査報告書第 352 集
青森県教育委員会　2003『三内丸山遺跡２１』青森県埋蔵文化財調査報告書第 361 集

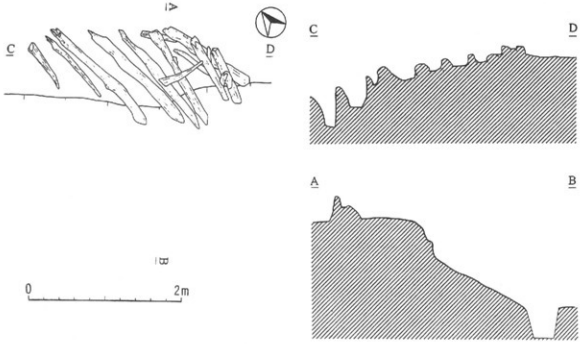
青森県教育委員会　2004『岩渡小谷（４）遺跡Ⅱ』青森県埋蔵文化財調査報告書第 371 集
青森県教育委員会　2004『笹ノ沢（３）遺跡Ⅳ』青森県埋蔵文化財調査報告書第 361 集
野辺地町教育委員会　2004『向田（18）遺跡』野辺地町文化財調査報告書第 14 集
八戸遺跡調査会　2001『田向冷水遺跡Ⅰ』八戸遺跡調査会埋蔵文化財調査報告書第１集
八戸市教育委員会　1986『八戸新都市区域内埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ―丹後谷地遺跡―』八戸市埋蔵文化財調査報告書第 15 集
八戸市教育委員会　2001『酒美平遺跡Ⅱ』八戸市埋蔵文化財調査報告書第 88 集
八戸市教育委員会　2001『牛ヶ沢（４）遺跡Ⅱ』八戸市埋蔵文化財調査報告書第 89 集
八戸市教育委員会　2002『是川中居遺跡 1』八戸市埋蔵文化財調査報告書第 91 集
八戸市教育委員会　2002『重地遺跡』八戸市埋蔵文化財調査報告書第 95 集
八戸市教育委員会　2003『風張（１）遺跡Ⅴ』八戸市埋蔵文化財調査報告書第 97 集
八戸市教育委員会　2004『是川中居遺跡２』八戸市埋蔵文化財調査報告書第 100 集

遺跡名：岩渡小谷（４）遺跡　所在地：青森県青森市　II期（縄文時代前期）



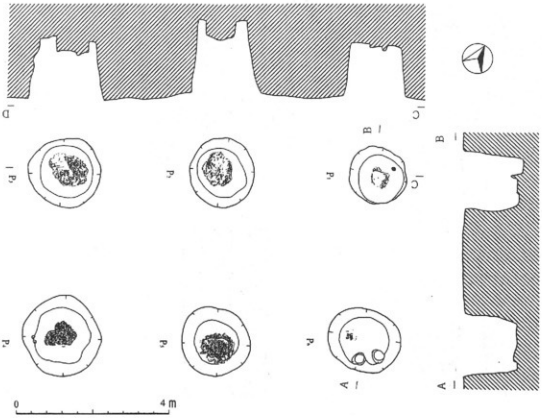
第1号木組遺構

遺跡名：三内丸山遺跡　所在地：青森県青森市　II期（縄文時代前期）

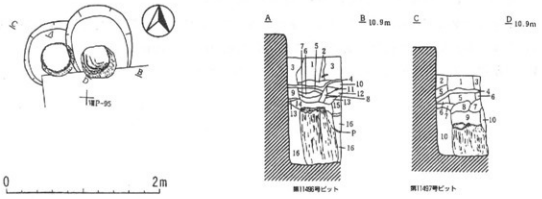


道路跡（杭列）

遺跡名：三内丸山遺跡　所在地：青森県青森市　III期（縄文時代中期）

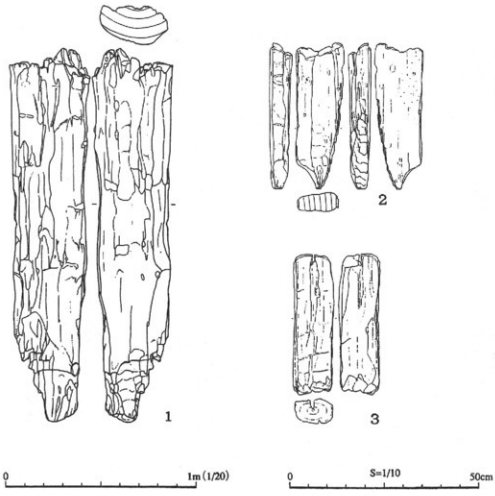


第26号掘立建物跡



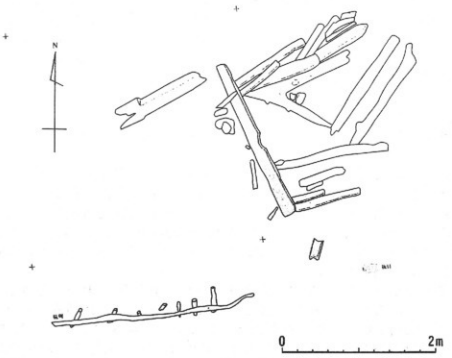
第11496・11497ピット

遺跡名：三内丸山（６）遺跡　所在地：青森県青森市　Ⅳ期（縄文時代後期）

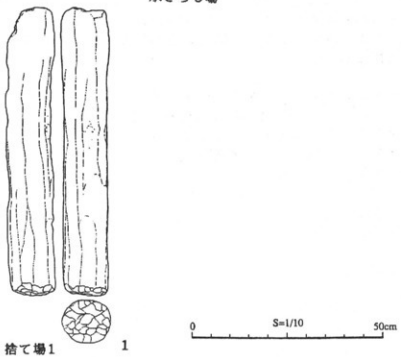


１．半割材（長さ199．6cm、幅40．6cm、厚さ20cm、クリ）
２．建築材（長さ38．4cm、幅12．6cm、厚さ５cm、クリ、柾目、一部炭化、浅い窪みがある）
３．丸太を偏分割した芯持材（長さ37．3cm、幅11cm、厚さ7．4cm、オニグルミ）
４．半割材（長さ15．04cm、幅8．8cm、厚さ7．3cm、クリ）

遺跡名：是川中居遺跡　所在地：青森県八戸市　Ⅴ期（縄文時代晩期）



水さらし場



捨て場1　1

1．柱材（長さ79cm、径11．9×13．3cm、クリ、枝分かれを除去、端部を加工）

秋田県の概要

五十嵐一治

秋田県内出土の縄文時代～飛鳥時代に属する建築部材はごく少なく、調査担当者により「建築材」として報告された例は一定量存在するが、その多くは焼失家屋から検出した炭化材であることから建築部材とされたものである。今回、集成対象とする「木材と木材を組み合わせる加工のあるもの」として取り上げることが適当なものは、縄文時代２例および古墳時代１例、合計３例のみにとどまる。

縄文時代草創期～早期

該当する建築部材無し。

縄文時代前期

大館市池内遺跡では段丘上に円筒下層ａ～ｄ期の集落跡が展開し、開析谷にはそれぞれの時期の捨て場を検出した。この段丘は十和田火山の鳥越火砕流（八戸火砕流）により形成された火砕流台地で、遺跡は４ｍもの厚さの火砕流堆積物上に立地する。その直下に不透水層があることから、開析谷は比較的湿潤であり、特にＳＴ６３９捨て場は地すべり等により開析谷が一部塞がれ、湧水とともに多くの動植物遺体が土器・石器などとともに出土した。

木製品は彫刻を施したクルミ核や赤漆塗り高台付双耳楕円形大皿のほか、石斧柄・掘り棒等が出土した。また多くの加工材とともに建築構造材、自然木も出土した。

建築構造材は14点出土しうち７点が図示されている。構架材をかける細工（凹み）が一端に見られ斧の刃当たりが見られるもの（639-1389）、端部仕口が平坦になるように加工され一部が面取りされているもの（639-1390）、又部を利用して構架材をかけたと思われ圧痕があるＹ字状材（639-1393）などが出土した。ほかにも斧痕が交互に入り、山形の彫刻様となるもの（639-1386・1387）も出土した。また図示はしていないが、又部近くに段加工があり、構架材をかけたうえで紐をかけて固定したと考えられるものも出土した。

縄文時代中期

平鹿郡山内村小田Ⅳ遺跡では、縄文時代中期末～後期初頭と思われるＳＩ１４５竪穴住居跡から、上屋に用いたと思われる炭化材が折り重なるように検出された。この中にほぞ穴と思われる加工痕が観察されたが、取り上げの際に崩れてしまったという。実測図の提示は無く、図版のみでの掲載となっている。

縄文時代後期～晩期

該当する建築部材無し。

弥生時代前期～後期

該当する建築部材無し。

古墳時代前期

該当する建築部材無し。

古墳時代中期

男鹿市小谷地遺跡（脇本埋没家屋）では、５世紀代の土師器とともに竪穴を伴う家屋遺構が検出された。第２家屋遺構と呼称されるこの遺構からは、桁材や屋根板、柱材などが倒壊したような状態で検出された。報文中で「ほぞ状の突起部」などとして認識されてはいるが、当該建築部材の実測図の提示は無く、図版のみでの掲載となっている。

ほぞ状の突起部でもって桁材を抱くようにしてかみ合っていた板材（７；厚 4.5×長 107×幅 23cm）には、ほぞ状の突出部（幅６×長 13cm）が作り出されていた。また一端を尖らし、他端を 12cm の深さに Ｕ 字形にうがった板材（71；厚 2.5×幅 16

×長 94cm）も出土し、これら２点については柱材として認識している。
また第一次調査の際には同様の形態を呈する柱材（厚８×幅 17.5×長 155cm、U字形の凹み 17cm）が第１家屋遺構の棟桁材をU字形の凹みの中に納めたまま出土したが、時期は平安時代に下るようである。

古墳時代後期～飛鳥・藤原時代

該当する建築部材無し。

古代以降

該当する建築部材無し。

秋田県の建築材仕口総括表

	仕口	柱	
時代	ほぞ	又受け直柱	凹受け直柱
Ⅰ期　縄文時代草創期～早期	△	△	△
Ⅱ期　縄文時代前期	○	○	△
Ⅲ期　縄文時代中期	○	△	△
Ⅳ期　縄文時代後期	△	△	△
Ⅴ期　縄文時代晩期	△	△	△
Ⅵ期　弥生時代前期	△	△	△
Ⅶ期　弥生時代中期	△	△	△
Ⅷ期　弥生時代後期	△	△	△
Ⅸ期　古墳時代前期	△	△	△
Ⅹ期　古墳時代中期	○	△	○
ⅩⅠ期　古墳時代後期～飛鳥・藤原時代	△	△	△
ⅩⅡ期　古代以降	△	△	△

文献

秋田県教育委員会『池内遺跡　遺構篇　－国道 103 号道路改良事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅷ－』秋田県文化財調査報告書第 268 集、1997 年（平成９）年

秋田県教育委員会『池内遺跡　遺物・資料篇　－国道 103 号道路改良事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅸ－』秋田県文化財調査報告書第 282 集、1999 年（平成 11）年

秋田県教育委員会『小田Ⅳ遺跡　－東北横断自動車道秋田線に係る埋蔵文化財発掘調査報告書ⅩⅧ－』秋田県文化財調査報告書第 243 集、1994（平成６）年

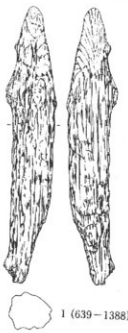
秋田県教育委員会『脇本埋没家屋第１次調査概報』秋田県文化財調査報告書第５集、1965（昭和 40）年

秋田県教育委員会『脇本埋没家屋第２次調査概報』秋田県文化財調査報告書第６集、1966（昭和 41）年

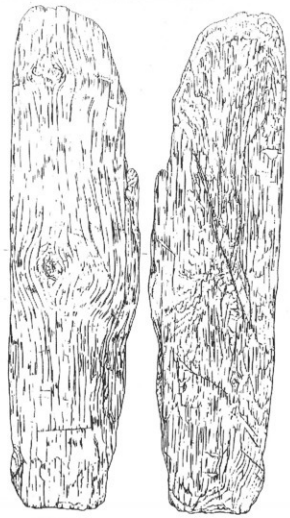
秋田県教育委員会『脇本埋没家屋第３次調査概報』秋田県文化財調査報告書第 11 集、1967（昭和 42）年

男鹿市教育委員会『脇本埋没家屋第四次発掘調査報告書（小谷地遺跡）』男鹿市文化財調査報告書第２集、1982（昭和 57）年

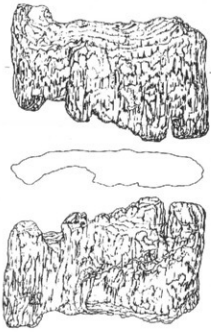
遺跡名：池内遺跡　所在地：秋田県大館市　II期（縄文時代前期）



1 (639－1388)

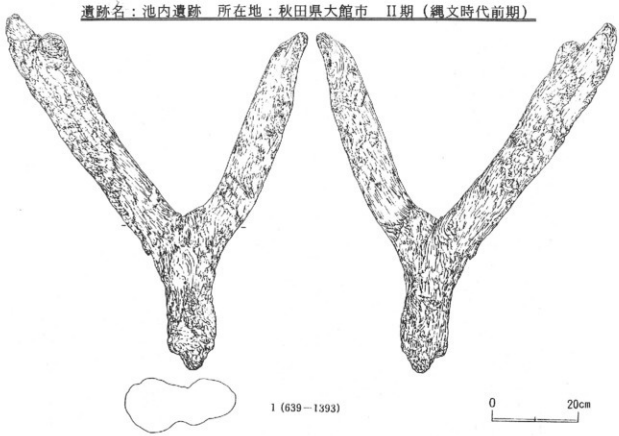


2 (639－1389)

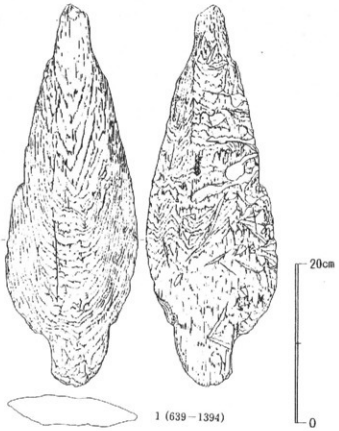


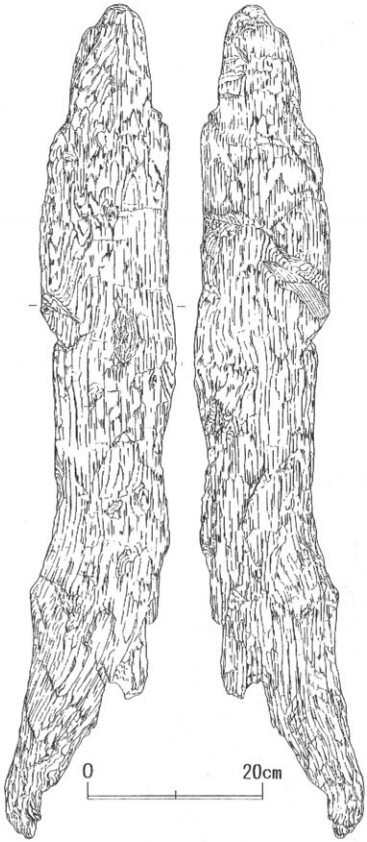
3 (639－1390)

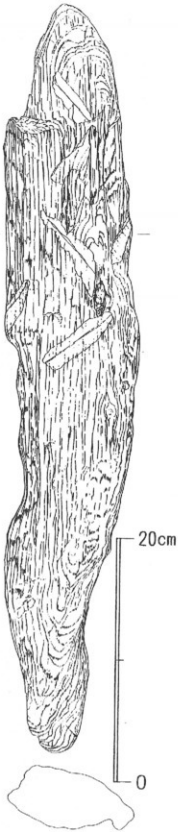
遺跡名：池内遺跡　所在地：秋田県大館市　II期（縄文時代前期）



第1015図　ST639谷出土木製品（11）





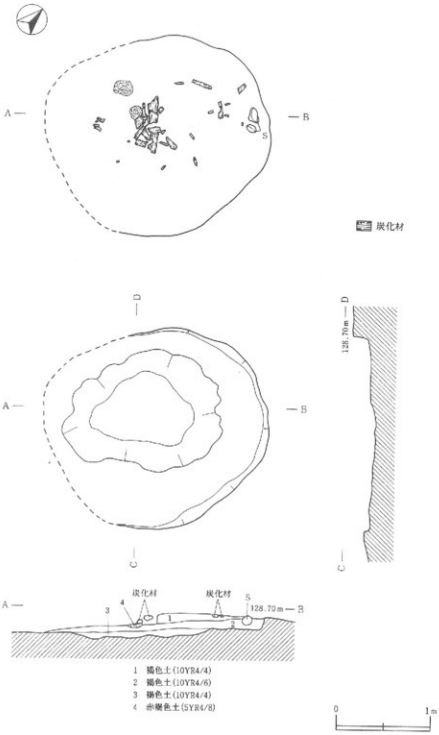


1 (639－1386)

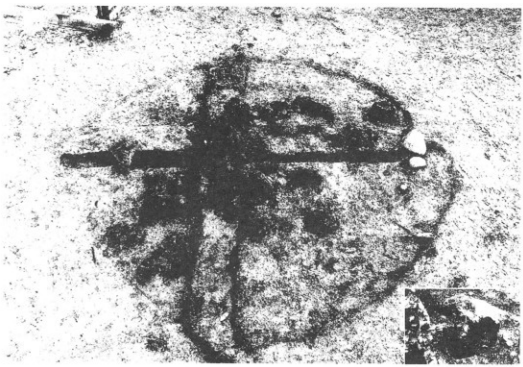
2 (639－1387)

第1012図　ＳＴ639谷出土木製品（８）

遺跡名：小田Ⅳ遺跡　所在地：秋田県平鹿郡山内村　Ⅲ期（縄文時代中期）

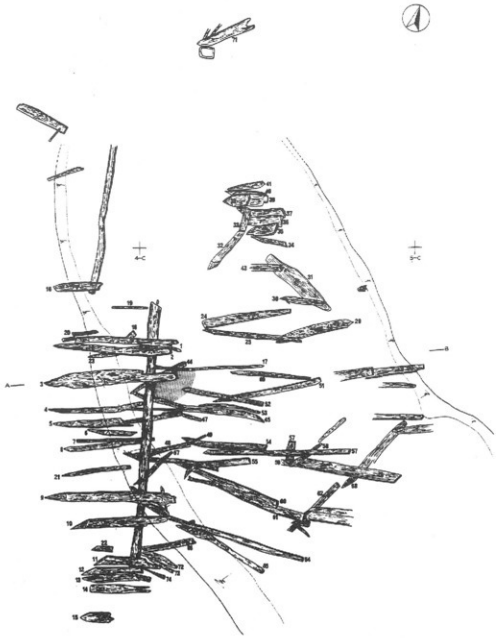


遺跡名：小田Ⅳ遺跡　所在地：秋田県平鹿郡山内村　Ⅲ期（縄文時代中期）



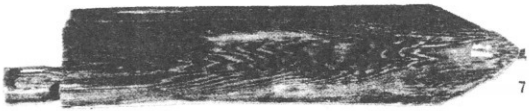
1．ＳＩ１４５炭化材出土状況及びホゾ穴があると思われる炭化材（右下）（北▷南）

遺跡名：小谷地遺跡　所在地：秋田県男鹿市　X期（古墳時代中期）

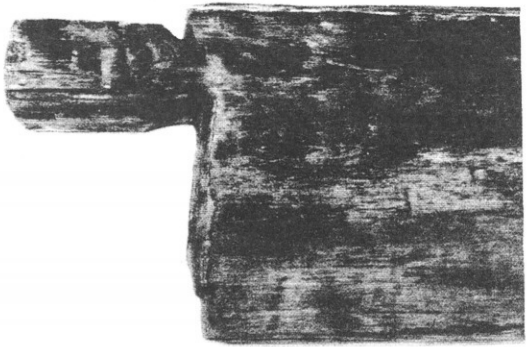


第４次発掘調査発見遺構図

遺跡名：小谷地遺跡　所在地：秋田県男鹿市　X期（古墳時代中期）

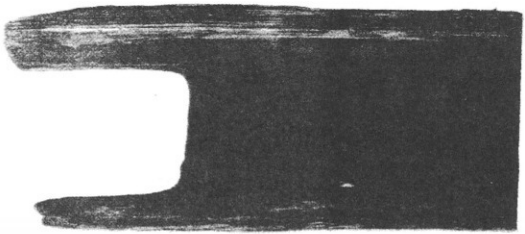


7

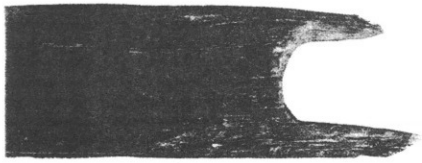


遺跡名：小谷地遺跡　所在地：秋田県男鹿市　X期（古墳時代中期）

71



遺跡名：小谷地遺跡　所在地：秋田県男鹿市　X期（古墳時代中期）



第1次調査出土遺材（柱）

岩手県の概要

荒井　格

岩手県内での建築部材の出土例は少なく、知られている資料の大部分は古代以降のものである。また、報告では今回の集成対象とされる時期の「建築材」としての例が一定程度みられるものの、その多くは焼失住居内の炭化材であり、形状などが確認される例はほとんどない。したがって、縄文時代から飛鳥時代の建築部材、建築技術の検討はここからの課題である。

縄文時代

縄文時代前期までの建築部材の出土例は知られていない。

中期の例はいずれも焼失住居内の炭化材であり、例として御所野遺跡と馬場平２遺跡を提示した。樹種同定の結果、御所野遺跡では、クリを中心とした落葉広葉樹が用いられており、他にはニレ属、カエデ属、コナラ属、サクラ属、トネリコ属、オニグルミ、ヤマウルシ、ケンポナシ属、ヤマグワ、アサダなどがみられる。馬場平２遺跡でもクリがほとんどを占め、カツラがわずかに確認されるのみである。また、資料提示していないが、中期末から後期初頭の軽米町馬場野Ⅱ遺跡の炭化材もクリが主体であり、ほかにはケヤキが用いられている。

後期の良好な例として、萪内遺跡の資料があげられる。トーテム・ポール様木製品（１）は、建築部材として適当でないかもしれないが、柱材への木彫の可能性も含め、掲載した。ほかには横架材と考えられる、端部に刻みを入れ有頭状にした材（２・３）、又受け直柱（４・５）、欠込みのある板材（６）、抉入割り材（７）などが出土している。抉入割り材は、川に杭を２本打ち込み、そこにかけてあった横板である。樹種の報告されているトーテム・ポール様木製品と抉入割り材は、ともにクリである。また、旧河道部から漁労遺構の□（えり）と考えられている木杭列遺構が発見されている。上流に向いて開口しており、開口部幅 370 ㎝、長さ 350 ㎝、魚溜め部長軸 270 ㎝、短軸 200 センチほどの規模である。

晩期の木製品としては、衣川村東裏遺跡で、端部に切れ込みを入れ右頭状にした板材が出土しているが、長さ 16.6 ㎝、幅 1.4 ㎝、厚さ２㎝と小型品であり建築材としては考えにくいことから、収録しなかった。樹種はヒバもしくはヒノキと報告されている。

弥生時代

弥生時代の建築部材の出土例はないが、中期の焼失住居跡で炭化材が出土している。しかし、建築部材として形状を確認できる資料はない。湯舟沢遺跡ⅦKi 竪穴住居の炭化材はナラ類のみであり、ⅦIj 竪穴住居ではナラ類のほかにトネリコ属、ホオノキが確認されている。

古墳時代

該当する建築部材は確認されていない。

1　仕口・継ぎ一覧表

時代	縄掛け溝継ぎ	縄掛け括れ継ぎ	備考
縄文時代	○	○	後期
弥生時代	△	△	
古墳時代以降	△	△	

2　軸組部材一覧表

時代	又受け直柱	横架材	備考
縄文時代	○	○	後期
弥生時代	△	△	
古墳時代以降	△	△	

掲載遺跡・文献一覧

No. 遺跡名　　文献

1 御所野遺跡　一戸町教育委員会　2004　『御所野遺跡Ⅱ』一戸町文化財調査報告書第48集

2 馬場平2遺跡　一戸町教育委員会　1983　『一戸バイパス関係埋蔵文化財報告書Ⅲ』一戸町文化財調査報告書第4集

3 葎内遺跡　（財）岩手県埋蔵文化財センター　1982　『盛岡市　葎内遺跡』　岩手県埋蔵文化財センター文化財調査報告書第32集

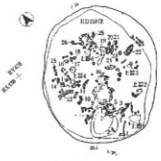
4 湯舟沢遺跡　滝沢村教育委員会　1986　『湯舟坂遺跡』　滝沢村文化財調査報告書第2集

5 和当地Ⅰ遺跡　（財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター　1997　『和当地Ⅰ遺跡発掘調査報告書』　岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第259集

6 東裏遺跡　岩手県教育委員会　1981　『東北縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告書―Ⅵ―』　岩手県文化財調査報告書第55集

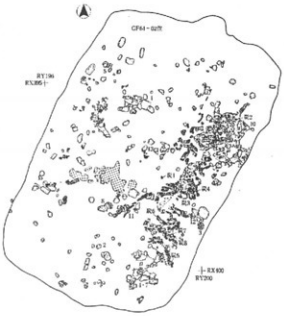
7 馬場野Ⅱ遺跡　（財）岩手県埋蔵文化財センター　1986　『馬場野Ⅱ遺跡発掘調査報告書』岩手県埋文センター文化財調査報告書第99集

1 遺跡名：御所野遺跡　所在地：岩手県一戸町　時期：Ⅲ期（縄文時代中期）



HD158竪穴住居跡

DE24竪穴住居跡



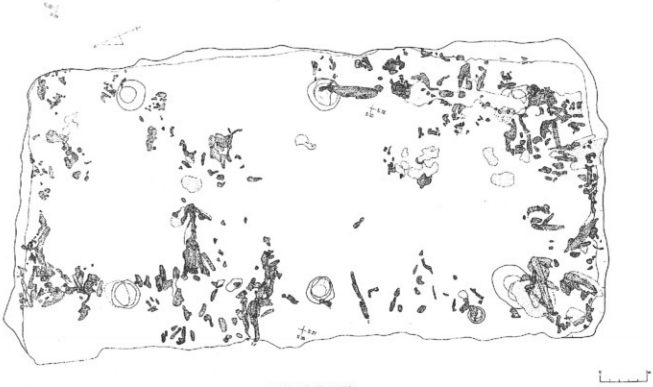
GF64-02竪穴住居跡

DF22竪穴住居跡

焼失住居跡から出土した炭化材には住居構築材に由来すると推定されるものが多くみられるが，建築部材として形状を確認できる例はない．

焼失住居跡の構築材と考えられる炭化材の樹種は，クリを中心とした落葉広葉樹で，他にニレ属やカエデ属，コナラ属，サクラ属，トネリコ属，オニグルミ，ヤマウルシ，ケンポナシ属，ヤマグワ，アサダなどが確認されている．

2　遺跡名：馬場平２遺跡　　所在地：岩手県一戸町　　時期：Ⅲ期（縄文時代中期）



C7竪穴住居跡

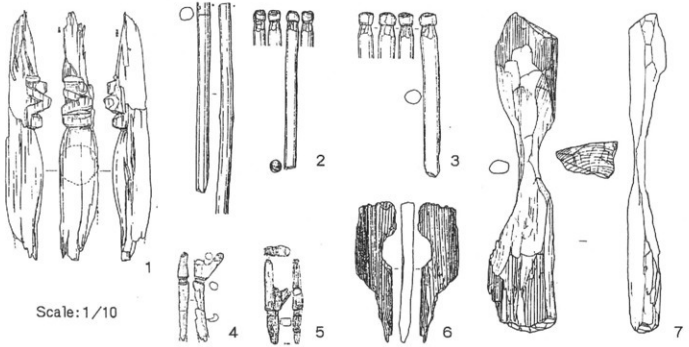
焼失住居跡から出土した炭化材には住居構築材に由来すると推定されるものが多くみられるが，建築部材として形状を確認できる例はない．

焼失住居跡の構築材と考えられる炭化材の樹種はクリがほとんどであり，ほかにはカツラがわずかに確認されるのみである．

3 遺跡名：萪内遺跡　　所在地：岩手県盛岡市　　時期：Ⅳ期（縄文時代後期）

漁撈遺構（魚）

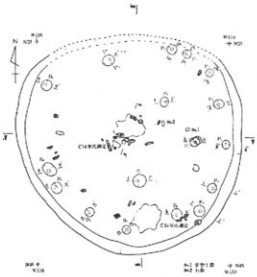
Scale:1/100



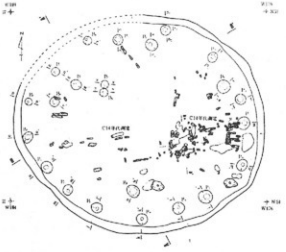
Scale:1/10

1．人がたの木彫（トーテム・ポール様木製品）　長65.5cm，直径10.5cm，樹種クリ
2．刻入頭付材　長146.0cm，幅3.2cm，厚3.0cm
3．刻入頭付材　長42.6cm，幅4.0cm，厚3.6cm
4．又受け直柱　長46.0cm，幅11.9cm，厚4.5cm
5．又受け直柱　長43.9cm，幅13.5cm，厚5.2cm
6．欠込みのある板材　長36.4cm，幅9.6cm，厚3.2cm
7．抉入刮材　長87.0cm，幅18.0cm，厚9.7cm，樹種クリ

4 遺跡名：湯舟沢遺跡　所在地：岩手県滝沢村　時期：Ⅶ期（弥生時代中期）



VⅢKi竪穴住居址

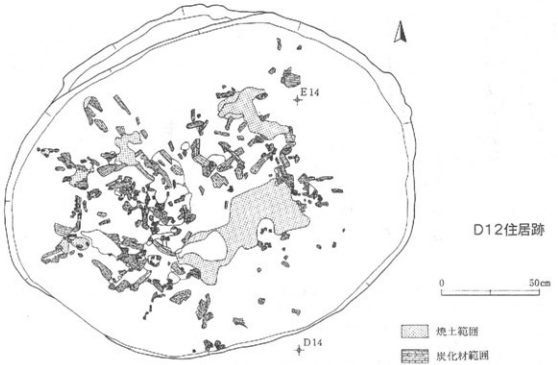


VⅢJ竪穴住居址

焼失住居跡から出土した炭化材には住居構築材に由来すると推定されるものがみられるが，建築部材として形状を確認できる例はない。

焼失住居跡の構築材と考えられる炭化材の樹種は，ⅦⅠKｉ竪穴住居址はナラ類のみであり，ⅦⅠｊ竪穴住居址ではナラ類の他にトネリコ類，ホオノキが確認される。

5 遺跡名：和当地Ⅰ遺跡　所在地：岩手県軽米町　時期：Ⅶ期（弥生時代中期）



炭化物・焼土検出状況図

焼失住居跡から出土した炭化材には住居構築材に由来すると推定されるものがみられるが，建築部材として形状を確認できる例はない。

宮城県の概要

荒井　格

宮城県内では、縄文時代から弥生時代前期および後期の建築部材の出土例はなく、弥生時代中期と古墳時代前期以降の資料が認められるのみである。したがって、縄文時代から弥生時代への建築部材、建築技術の変化・変遷の比較検討には資料の蓄積が待たれるところである。一方、弥生時代と古墳時代では一定程度の資料が確認されるものの詳細な分析は行われておらず、これからの検討課題である。

縄文時代

該当する建築部材は確認されていない。

弥生時代中期

高田 B 遺跡と中在家南遺跡から建築部材が出土している。中在家南遺跡と高田 B 遺跡および後述の押口遺跡では、幅 20m前後の大規模な自然流路跡が確認されており、弥生時代の木製品はその堆積土最下層付近から出土している。また、堆積土の上層からは古墳時代前期から後期の木製品も発見されている。

高田 B 遺跡には欠込みのある板材（1）や材（2・12）、横架材と考えられる欠込みのある角材（4）、垂木（3）などがある。用いられている樹種はクリ、ハンノキ節、クヌギ節、トネリコ属などである。

中在家南遺跡からは、柱材（8・9）、扉板（7）、梯子（11）、板材、角材などが出土している。柱材は又受け直柱であり、9には縄掛け溝が認められる。扉板は未成品であり、梯子と同様に半割材から作り出されている。樹種は、柱材と梯子がキハダ、扉板はオニグルミである。そのほかの板材や角材にはクリ、イヌガヤ、ミズキ属、カエデ属などが用いられているが、角材には農具などの製作工程初期段階の未成品が含まれている可能性がある。

以上のように、弥生時代中期の建築部材の使用樹種は落葉広葉樹に限られている。

古墳時代前期

古墳時代前期の建築部材は、押口遺跡、高田 B 遺跡、中在家南遺跡、山前遺跡から出土している。押口遺跡からは、括れによって端部を有頭状に作り出した材（1）、欠込みのある材（2・4）、板材片が出土している。樹種同定によって判明している使用樹種はコナラ節である。

高田 B 遺跡では、柱材（3）、板材（1）、材などがみられる。柱材は又受け直柱であり、ハンノキ節が用いられている。板材はカツラの板目材であり、一端は焼失しているが、残存する側面には接ぎのための加工は確認されない。そのほかの材には、カエデ属、ハンノキ節、クニギ節、トネリコ属、クリ、チドリノキ、ヤマグワ、ケンポナシ属などが用いられている。

中在家南遺跡からは、板材（6・7・8・13・14・15・16・20）、欠込みがあり、括れによって端部を有頭状に作り出した材（5）、欠込みのある材（2・4・11）などが出土している。13と 15 には、貫通孔が確認され、20 には貫通孔のあるほぞが作り出されている。2と 11 は欠込みが認められるものの、その部位で破損しており、相欠きか不明である。使用樹種は、板材がクリ、ケンポナシ属、コナラ節、ケヤキ、オニグルミ、クヌギ節であり、材にはニガキ、クリ、キハダ、ハンノキ節、ニレ属、カエデ属などが用いられている。

山前遺跡からは貫通孔のある栓が出土している。

古墳時代中期

古墳時代中期の建築部材は、押口遺跡、山王遺跡、台遺跡、高田B遺跡、中在家南遺跡から出土している。

押口遺跡からは、柱材（9）、板材（1・2・6）、ほぞと欠込みのある材（5）などが出土している。柱材は又受け直柱である。1の板材の片面には長軸方向の段差が作り出されている。板材にはコナラ節、ケヤキ、サワグルミが用いられ、ほぞと欠込みのある材はエゴノキである。

山王遺跡では堰と考えられる木組遺構が検出されており、クヌギ、トチノキ、サワラ、ハンオキ、トネリコ類、ヌルデ、モミが用いられている。また、クリを用いた貫穴のある材も確認され

ている。

台遺跡からは栓と加工材が出土している。写真による提示のみで詳細は不明である。

高田B遺跡からは梯子（2）、板材（1・23・31・43・48）、欠込みのある材（6・12・13・15・17・20・24・27）、括れによって端部を有頭状に作り出した材（3・7・51）、垂木（11・18）などが出土している。梯子は完形であり、長さは170㎝である。クリが用いられている。1の先端には、矢板状に加工が施され、23には貫通孔が確認される。51には括れと欠込みが観察される。使用樹種は、板材がハンノキ節、クリ、オニグルミ、カツラ、欠込みのある材がオニグルミ、クヌギ節、ケンポナシ属、ケヤキ、クリ、カツラ、トネリコ属、端部を有頭状に作り出した材がオニグルミ、カエデ属、ナシ亜属、垂木がガマズミ属、ハンノキ節である。そのほかの材にはモミ属やニレ属なども認められる。

中在家南遺跡では、柱材（3・31）、梯子（13・36）、板材（1・2・5・6・8・15・17・20・23・26・30・32）、欠込みのある材（4）、垂木（9・10・18・19・21・22・25・29・33・34）などが出土している。3は凹受け直柱、31は又受け直柱である。柱材に用いられている樹種はケンポナシとカエデ属である。1の板材には大小の貫通孔がみられ、2は断面L字形に削り出した板材に貫通孔が近接して開けられている。26は、2枚の板材に貫通孔が開けられ、樹皮と横木によって接がれており、壁板材と推定される。樹種は、板材がケヤキ、横木はクヌギ節である。15の樹種もケヤキであり、貫通孔の位置など26と同様の形状であることから、壁板材と考えられる。8には半円形の欠込みが確認される。壁板材以外の板材には、モミ属、ケンポナシ、ニガキ、コナラ節、クリが用いられている。垂木の使用樹種は、ハンノキ節、ウコギ科、クリ、クヌギ節、ニレ属、ヤマグワ、イヌシデ節などである。梯子にはモクレン属とクリが用いられている。

古墳時代後期

古墳時代後期の建築部材は、市川橋遺跡、押口遺跡、山王遺跡、台遺跡、高田B遺跡から出土している。

市川橋遺跡からは、板材（12～15）、梯子（29～31）、板材（5～7）、ほぞのある材（21～23）、栓（1）、貫通孔のある材（3・4・27）、欠込みのある材（2・9～11）、相欠込みのある材（28）、垂木（16～19）などが出土している。柱材はいずれも又受け直柱であり、12には欠込みが確認される。27は貫穴のある柱材と考えられる。6の板材には、ほぞが作り出されている。相欠込みのある材28は横架材とみられる。使用樹種は、梯子がクヌギ節とクリ、板材がアサダとケヤキ、欠込みのある材がオニグルミ、モミ属、クリ、垂木がヤマグワ、ハンオキ、ミツバウツギである。栓は、アサダである。

押口遺跡からは、蹴放しが出土している。樹種はクリである。

山王遺跡では、柱材（9）、扉板？（2）、梯子（7・8）、板材（11・14・15）、栓（3～6）、又受けと貫通孔のあるほぞをもつ部材（13）、欠込みのある材（1）などが出土している。柱材は又受け直柱である。板材には貫通孔が確認される。樹種の報告がある13はクヌギ節である。

台遺跡からは、貫通孔のある材と貫穴のある材が出土しているが、写真による提示のみで証左は不明である。

高田B遺跡には、貫通孔のある材（1）と材（2・3）がみられる。貫通孔のある材はクリ、材はオニグルミとカエデ属が用いられている。

1．板接ぎ・仕口・継ぎ一覧表

時　代	貫　穴	仕口（ほぞ）	欠込み	板接ぎ	備考
縄文時代	△	△	△	△	
弥生時代	△	△	○	△	中期
古墳時代前期	○	○	◎	△	
古墳時代中期	○	△	◎	○	
古墳時代後期	◎	◎	◎	△	

2．柱材等一覧

時　代	又受け直柱	凹受け直柱	横架材	壁板材	備考
縄文時代	△	△	△	△	
弥生時代	○	△	○	△	中期
古墳時代前期	○	△	○	○	
古墳時代中期	○	○	○	○	
古墳時代後期	◎	△	◎	○	

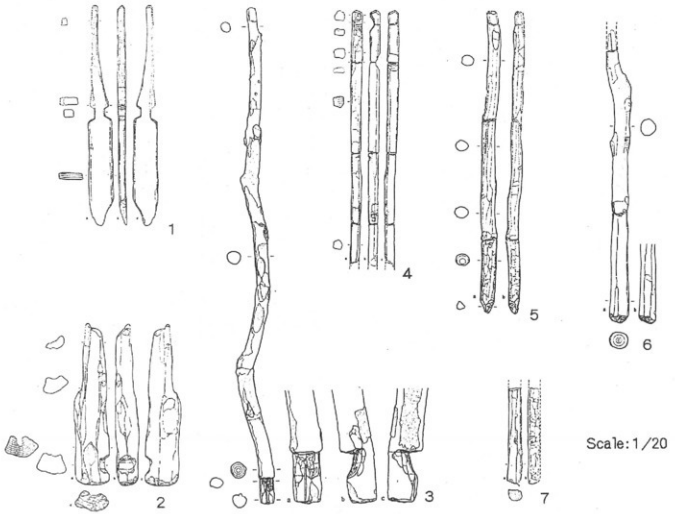
3．特定部位材一覧

時　代	扉関連材	梯　子	栓	備考
縄文時代	△	△	△	
弥生時代	○	○	△	中期
古墳時代前期	△	△	○	
古墳時代中期	△	○	○	
古墳時代後期	○	◎	◎	

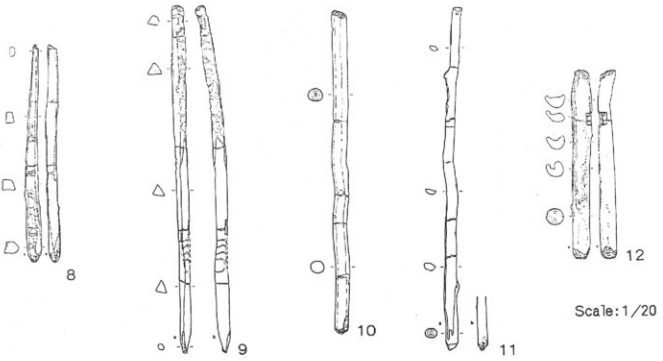
掲載遺跡・文献一覧

No.	遺跡名	文献
1	高田B遺跡	仙台市教育委員会 2000『高田B遺跡』仙台市文化財調査報告書第 242 集
2	中在家南遺跡	仙台市教育委員会 1996『中在家南遺跡　他』仙台市文化財調査報告書第 213 集 仙台市教育委員会 2002『中在家南遺跡（第３・４次）　押口遺跡（第３次）』仙台市文化財調査報告書第 255 集
3	押口遺跡	２と同じ
4	高田B遺跡	１と同じ
5	中在家南遺跡	２と同じ
6	山前遺跡	小牛田町教育委員会 1979『山前遺跡―史跡環境整備報告書―』
7	押口遺跡	２と同じ
8	山王遺跡	多賀城市埋蔵文化財調査センター1990『山王遺跡―第８次発掘調査報告書―』多賀城市文化財調査報告書第 22 集
9	台遺跡	宮城県教育委員会 1989『亘理町三十三間堂遺跡ほか』宮城県文化財調査報告書第 131 集
10	高田B遺跡	１と同じ
11	中在家南遺跡	２と同じ
12	市川橋遺跡	宮城県教育委員会・宮城県土木部 2001『市川橋遺跡の調査』宮城県文化財調査報告書台 184 集
13	押口遺跡	２と同じ
14	山王遺跡	多賀城市埋蔵文化財調査センター1992『山王遺跡―第 12 次発掘調査報告書―』多賀城市文化財調査報告書第 30 集 宮城県教育委員会・宮城県土木部 1989『山王遺跡八幡地区の調査２』多賀城市文化財調査報告書第 186 集
15	台遺跡	９と同じ
16	高田B遺跡	１と同じ

1 遺跡名：高田B遺跡　所在地：宮城県仙台市　時期：Ⅶ期（弥生時代中期）①

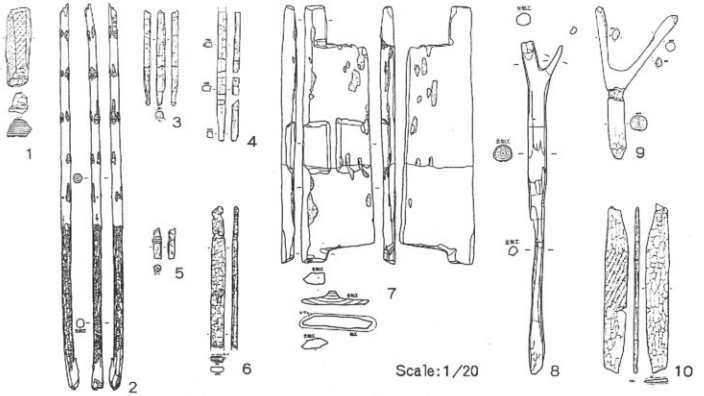


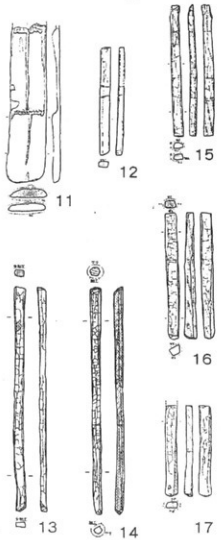
1．欠込みのある板材　長115.5cm，幅13.1cm，厚4.6cm，樹種クリ
2．欠込みのある材　長84.8cm，幅17.3cm，高12.1cm，樹種クリ
3．垂木　長260.8cm，幅8.2cm，厚8.6cm，樹種カエデ属
4．欠込みのある角材　長134.4cm，幅8.1cm，厚5.6cm，樹種ハンノキ節
5．材　長158.4cm，幅8.0cm，厚6.6cm，樹種ハンノキ節
6．材　長152.5cm，幅10.2cm，厚8.7cm，樹種クリ
7．角材　長50.6cm，幅7.2cm，厚6.2cm，樹種クヌギ節



8．欠込みのある角材　　長113.4cm，幅7.3cm，厚5.9cm，樹種トネリコ属
9．材　　長183.8cm，幅7.4cm，厚6.3cm
10．材　　長171.2cm，幅7.8cm，厚6.6cm，樹種トネリコ属
11．材　　長180.2cm，幅6.5cm，厚5.0cm
12．欠込みのある材　　長99.3cm，幅10.7cm，厚8.3cm

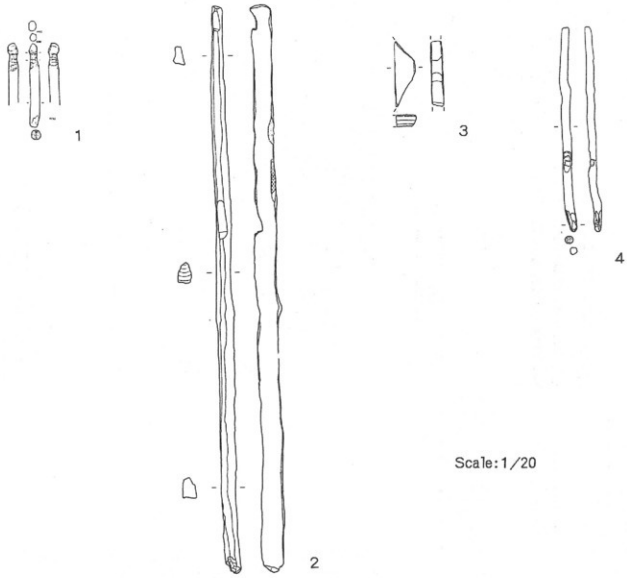
2 遺跡名；中在家南遺跡　所在地；宮城県仙台市　時期；Ⅶ期（弥生時代中期）





1．欠込みのある材　長42.4cm，幅13.2cm，厚9.0cm，樹種クリ
2．材　長200.2cm，幅4.3cm，厚4.7cm，樹種イヌガヤ
3．角材　長50.8cm，幅4.3cm，厚3.4cm，樹種クリ
4．角材　長62.6cm，幅4.5cm，厚3.0cm，樹種ミズキ属
5．欠込みのある角材　長16.5cm，幅4.0cm，厚3.7cm，樹種オニグルミ
6．欠込みのある板材　長74.2cm，幅6.9cm，厚2.6cm，樹種カエデ属
7．扉板　長136.0cm，幅38.0cm，厚7.6cm，樹種オニグルミ
8．又受け直柱　長173.5cm，幅10.5cm，厚9.0cm，樹種キハダ
9．又受け直柱　長81.8cm，幅8.6cm，厚8.6cm，樹種キハダ
10．板材　長87.6cm，幅12.2cm，厚2.4cm
11．梯子　長82.8cm，幅20.0cm，厚4.8cm，樹種キハダ
12．角材　長56.5cm，幅5.0cm，厚3.1cm，樹種ミズキ
13．角材　長120.1cm，幅5.3cm，厚4.3cm
14．角材　長118.8cm，幅4.8cm，厚3.4cm
15．角材　長68.5cm，幅5.0cm，厚2.9cm，樹種ミズキ
16．角材　長66.3cm，幅5.8cm，厚4.7cm
17．角材　長48.4cm，幅6.0cm，厚3.2cm

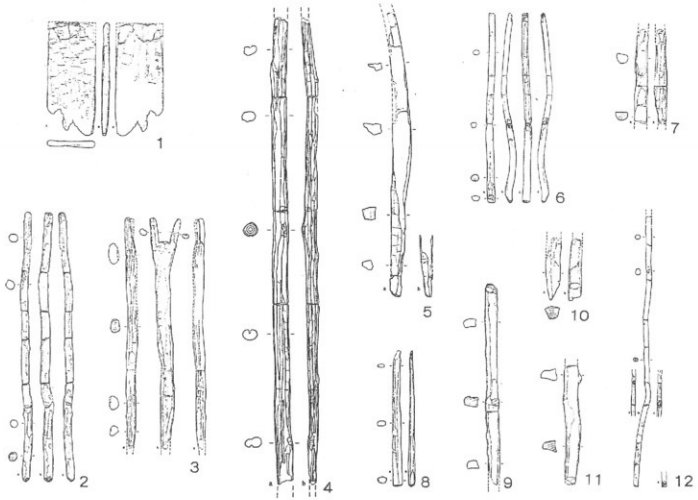
3 遺跡名；押口遺跡　　所在地；宮城県仙台市　　時期；Ⅸ期（古墳時代前期）



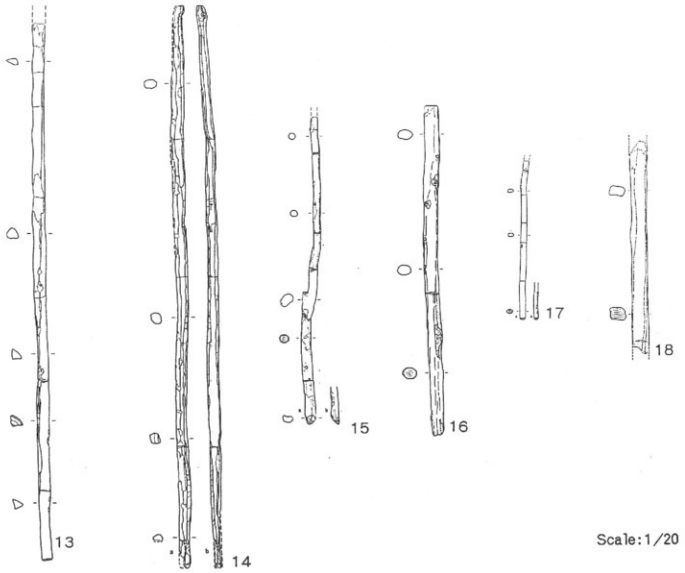
1．垂木？　　長43.3cm，直径約５cm，樹種コナラ
2．欠込みのある材　　長294.2cm，幅14.0cm，厚7.0cm，樹種コナラ節
3．板材　　長17.0cm，幅5.3cm，厚3.0cm
4．欠込みのある材　　長106.7cm，幅4.5cm，厚3.9cm

4 遺跡名：高田B遺跡　所在地：宮城県仙台市　時期：K期（古墳時代前期）①

Scale:1/20

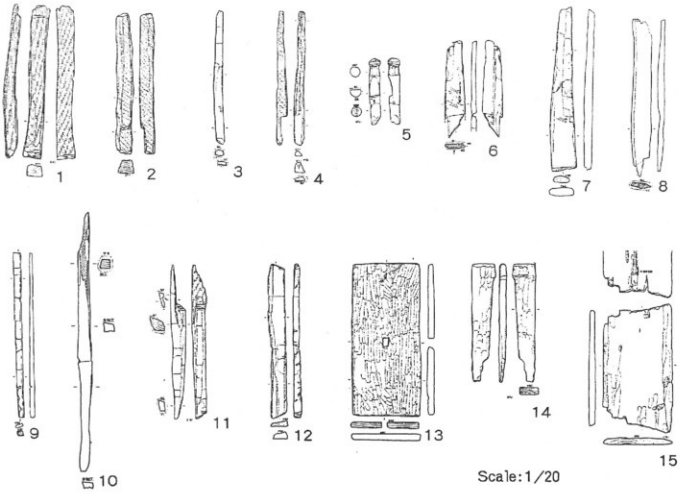


1．板材　長59.5cm，幅25.2cm，厚4.0cm，樹種カツラ
2．材　長141.9cm，幅4.1cm，厚5.2cm，樹種カエデ属
3．又受け直柱　長121.4cm，幅10.8cm，厚4.8cm，樹種ハンノキ節
4．材　長246.6cm，幅8.7cm，厚7.2cm，樹種ハンノキ節
5．材　長149.5cm，幅9.7cm，厚6.5cm，樹種クヌギ節
6．欠込みのある材　長100.0cm，幅4.0cm，厚3.6cm，樹種トネリコ属
7．材　長49.8cm，幅6.7cm，厚6.8cm，樹種コナラ節
8．材　長70.9cm，幅4.8cm，厚3.5cm，樹種ハンノキ節
9．材　長106.1cm，幅5.2cm，厚4.9cm，樹種カエデ属
10．材　長33.0cm，幅7.7cm，厚5.7cm，樹種クリ
11．材　長62.1cm，幅9.1cm，厚5.9cm，樹種チドリノキ
12．材　長143.0cm，幅2.7cm，厚3.2cm，樹種ヤマグワ



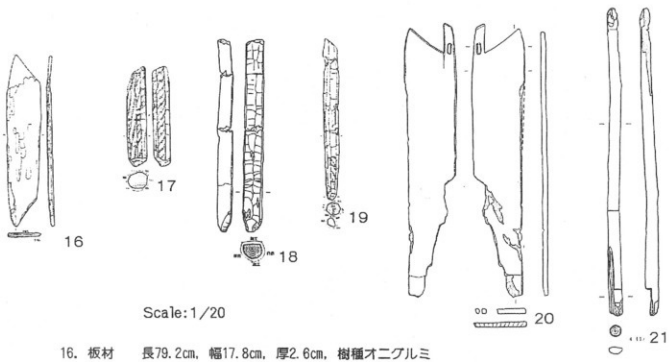
13. 材　長280.8cm，幅6.2cm，厚5.8cm，樹種ハンノキ節
14. 材　長294.3cm，幅6.4cm，厚5.8cm，樹種クヌギ節
15. 材　長160.4cm，幅4.9cm，厚4.1cm，樹種チドリノキ
16. 材　長171.8cm，幅8.4cm，厚5.8cm，樹種ハンノキ節
17. 材　長83.1cm，幅3.0cm，厚2.cm
18. 角材　長110.7cm，幅8.5cm，厚6.8cm，樹種ケンポナシ属

5 遺跡名；中在家南遺跡　　所在地；宮城県仙台市　　時期；Ⅸ期（古墳時代前期）①



1．角材　　長81.6cm，幅8.0cm，厚6.4cm，樹種ニガキ
2．角材　　長74.0cm，幅8.0cm，厚7.2cm，樹種クリ
3．角材　　長70.2cm，幅4.4cm，厚3.9cm，樹種キハダ
4．欠込みのある角材　　長70.6cm，幅5.4cm，厚5.4cm，樹種クリ
5．垂木　　長34.6cm，幅6.0cm，厚6.0cm，樹種ハンノキ節
6．板材　　長51.7cm，幅10.2cm，厚2.5cm，樹種クリ
7．板材　　長86.4cm，幅12.7cm，厚4.3cm，樹種ケンポナシ属
8．板材　　長82.6cm，幅10.3cm，厚3.5cm，樹種コナラ節
9．角材　　長87.2cm，幅4.0cm，厚2.5cm，樹種ニレ属
10．角材　　長136.2cm，幅6.8cm，厚4.7cm，樹種コナラ節
11．欠込みのある角材　　長81.4cm，幅7.6cm，厚7.0cm，樹種クリ
12．板材　　長81.1cm，幅8.8cm，厚3.0cm，樹種クヌギ節
13．貫通孔のある板材　　長81.4cm，幅35.8cm，厚3.4cm，樹種ケヤキ
14．欠込みのある板材　　長62.6cm，幅12.2cm，厚3.8cm，樹種ケヤキ
15．貫通孔のある板材　　長68.6cm，幅36.6cm，厚3.6cm，樹種オニグルミ

遺跡名；中在家南遺跡　　所在地；宮城県仙台市　　時期；Ⅸ期（古墳時代前期）②

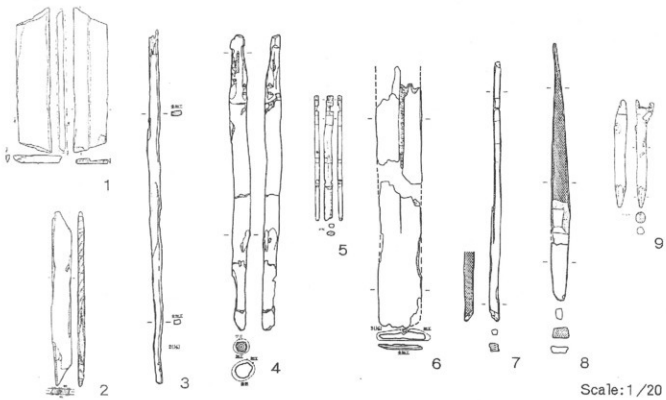


16．板材　　長79.2cm，幅17.8cm，厚2.6cm，樹種オニグルミ
17．角材　　長53.0cm，幅10.0cm，厚8.6cm，樹種オニグルミ
18．材　　長100.0cm，幅9.8cm，厚8.7cm，樹種ハンノキ節
19．材　　長84.8cm，幅7.6cm，厚6.7cm，樹種カエデ属
20．貫通孔のあるほぞをもつ板材　　長138.0cm，幅24.5cm，厚2.7cm，樹種クヌギ節
21．垂木　　長159.9cm，幅7.0cm，厚6.8cm

6 遺跡名；山前遺跡　　所在地；宮城県小牛田町　　時期；Ⅸ期（古墳時代前期）

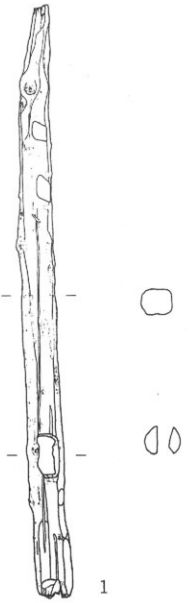
1．貫通孔のある柱　　長約23cm，幅約５cm，厚約4.5cm

7 遺跡名：押口遺跡　　所在地：宮城県仙台市　　時期：X期（古墳時代中期）



1．段差のある材　　長76.6cm，幅16.9cm，厚2.9cm，樹種コナラ節
2．板材　　長92.2cm，幅10.2cm，厚3.0cm，樹種ケヤキ
3．角材　　長186.2cm，幅7.9cm，厚2.6cm，樹種クリ
4．突起のある材　　長146.4cm，幅9.2cm，厚8.4cm，樹種カツラ
5．ほぞと欠込みのある材　　長65.9cm，幅3.9cm，厚2.4cm，樹種エゴノキ
6．板材　　長135.6cm，幅12.6cm，厚3.6cm，樹種サワグルミ
7．角材　　長136.2cm，幅5.0cm，厚5.0cm
8．角材　　長135.0cm，幅10.0cm，厚5.5cm
9．又受け直柱　　長56.4cm，幅5.5cm，厚4.9cm

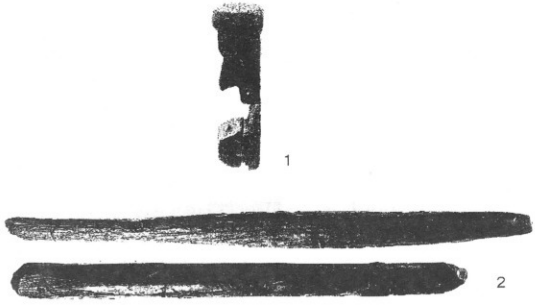
8 遺跡名；山王遺跡　所在地；宮城県多賀城市　時期；X期（古墳時代中期）



Scale:1/20

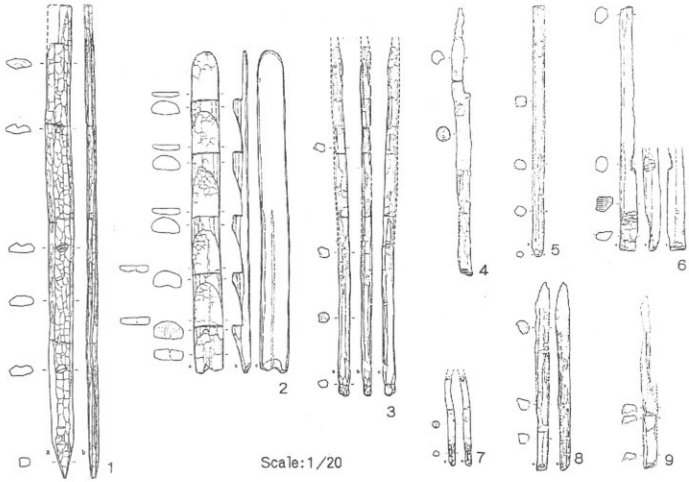
木組遺構（堰？）
立杭；クヌギ(7)，ハンノキ(1)
横木；クヌギ(4)，トネリコ類(1)
斜材；トチノキ(10)，サワラ(4)，ヌルデ(1)，モミ(1)
1．貫通孔のある材　長322cm，幅19cm，厚15cm，樹種クリ

9 遺跡名：台遺跡　　所在地：宮城県蔵王町　　時期：X期（古墳時代中期）

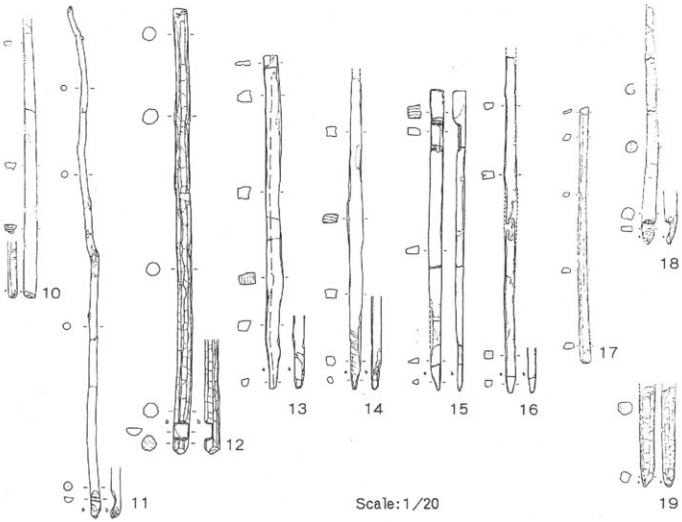


1．栓　　法量不明
2．加工材　　法量不明

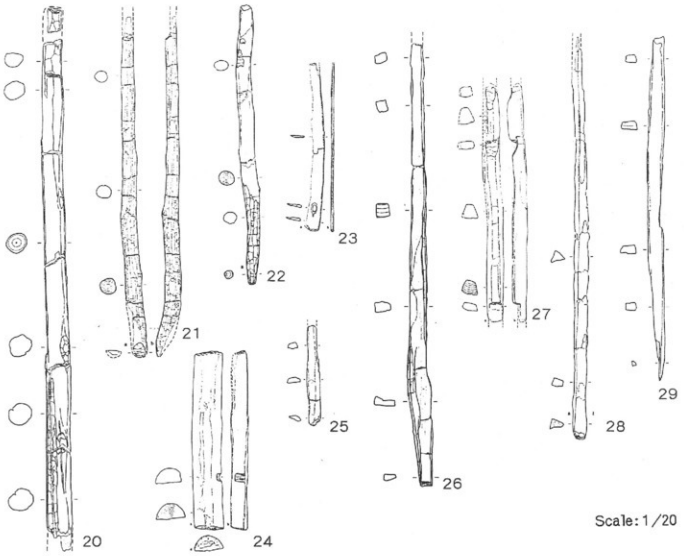
10 遺跡名：高田B遺跡　　所在地：宮城県仙台市　　時期：X期（古墳時代中期）①



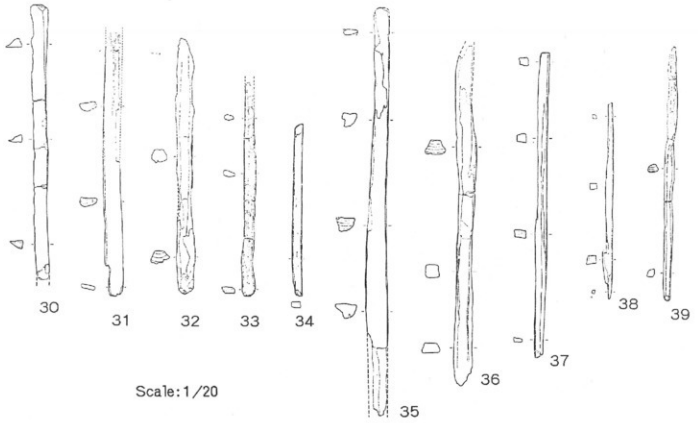
1．板材　　長249.2cm，幅7.6cm，厚2.8cm，樹種ハンノキ節
2．梯子　　長170.0cm，幅15.3cm，厚9.5cm，樹種クリ
3．横架材　　長184.2cm，幅6.4cm，厚4.8cm，樹種オニグルミ
4．材　　長141.0cm，幅7.3cm，厚7.8cm，樹種ハンノキ節
5．材　　長132.4cm，幅6.0cm，厚5.4cm，樹種モミ属
6．欠込みのある材　　長129.1cm，幅8.2cm，厚8.2cm，樹種オニグルミ
7．垂木　　長47.1cm，幅3.8cm，厚3.6cm，樹種カエデ属
8．材　　長98.4cm，幅6.9cm，厚7.1cm，樹種クヌギ節
9．材　　長90.2cm，幅7.3cm，厚4.8cm，樹種クリ



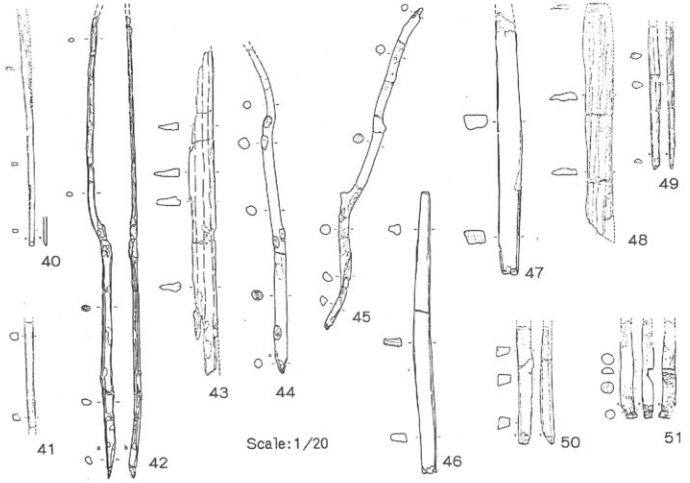
10. 材　　長143.9cm，幅7.0cm，厚5.0cm，樹種クリ
11. 垂木　　長269.6cm，幅5.0cm，厚4.8cm，樹種ガマズミ属
12. 欠込みのある材　　長234.5cm，幅8.0cm，厚8.0cm，樹種クヌギ節
13. 欠込みのある材　　長174.3cm，幅8.8cm，厚6.4cm，樹種ケンポナシ属
14. 材　　長162.7cm，幅7.4cm，厚5.4cm，樹種モミ属
15. 欠込みのある材　　長156.8cm，幅6.8cm，厚7.1cm，樹種ケヤキ
16. 材　　長175.7cm，幅6.7cm，厚4.2cm，樹種クリ
17. 欠込みのある材　　長134.7cm，幅5.7cm，厚3.7cm，樹種クリ
18. 垂木　　長124.0cm，幅6.8cm，厚6.3cm，樹種ハンノキ節
19. 材　　長52.8cm，幅7.6cm，厚6.6cm，樹種ニレ属



20. 欠込みのある材　　長284.5cm，幅13.0cm，厚11.6cm，樹種カツラ
21. 欠込みのある材　　長179.2cm，幅8.4cm，厚8.2cm，樹種ハンノキ節
22. 材　　長147.3cm，幅8.0cm，厚7.3cm，樹種ハンノキ節
23. 貫通孔のある板材　　長87.4cm，幅7.2cm，厚1.5cm，樹種クリ
24. 欠込みのある半割材　　長94.2cm，幅15.4cm，厚9.0cm，樹種トネリコ属
25. 材　　長53.2cm，幅6.8cm，厚3.3cm，樹種ハンノキ節
26. 材　　長232.4cm，幅11.2cm，厚7.3cm，樹種ケンポナシ属
27. 欠込みのある材　　長125.1cm，幅9.0cm，厚8.6cm，樹種クリ
28. 材　　長210.8cm，幅7.0cm，厚5.2cm，樹種ケンポナシ属
29. 材　　長181.4cm，幅8.4cm，厚4.5cm，樹種モミ属

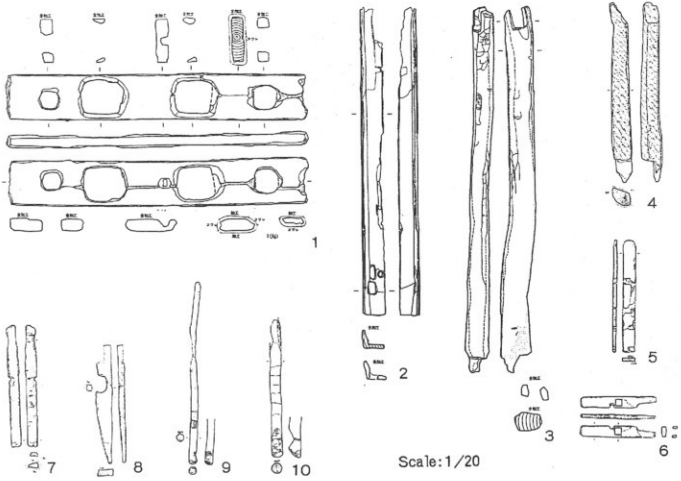


30. 材　長144.4cm，幅9.4cm，厚5.0cm，樹種ハンノキ節
31. 板材　長139.0cm，幅9.6cm，厚4.6cm，樹種クリ
32. 角材　長134.9cm，幅9.7cm，厚9.2cm，樹種クヌギ節
33. 材　長112.4cm，幅6.9cm，厚3.6cm，樹種ケンポナシ属
34. 角材　長90.3cm，幅5.4cm，厚3.9cm，樹種クリ
35. 材　長213.7cm，幅11.2cm，厚7.8cm，樹種クリ
36. 角材　長178.0cm，幅10.4cm，厚7.4cm，樹種ケンポナシ属
37. 角材　長159.7cm，幅6.2cm，厚4.4cm，樹種クリ
38. 角材　長103.3cm，幅5.0cm，厚4.5cm，樹種クリ
39. 材　長133.9cm，幅5.2cm，厚4.1cm，樹種クリ

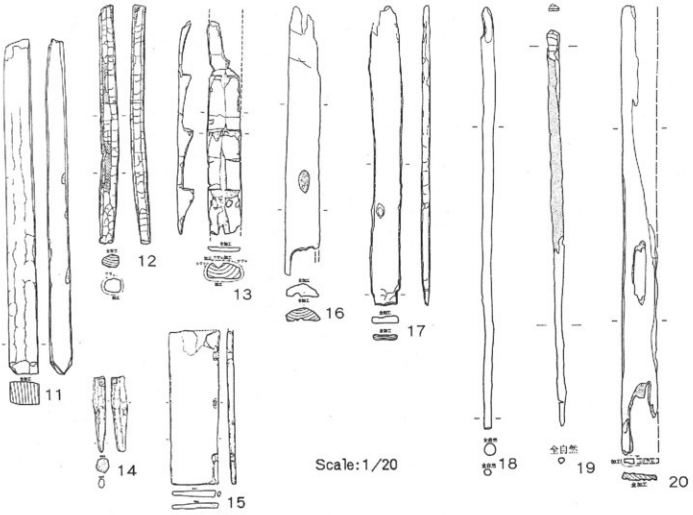


40. 材　長121.3cm，幅3.5cm，厚1.6cm，樹種クリ
41. 材　長55.6cm，幅4.5cm，厚3.8cm，樹種クリ
42. 材　長242.0cm，幅5.9cm，厚4.5cm，樹種クサギ
43. 板材　長169.0cm，幅11.6cm，厚4.0cm，樹種オニグルミ
44. 材　長170.0cm，幅5.8cm，厚5.2cm，樹種カエデ属
45. 欠込みのある材　長169.2cm，幅5.7cm，厚5.5cm，樹種チドリノキ
46. 材　長149.0cm，幅4.7cm，厚5.6cm，樹種ケンポナシ属
47. 角材　長91.5cm，幅8.3cm，厚5.0cm，樹種クリ
48. 板材　長121.8cm，幅16.1cm，厚4.5cm，樹種カツラ
49. 材　長74.9cm，幅5.6cm，厚3.3cm，樹種オニグルミ
50. 角材　長62.3cm，幅8.1cm，厚6.4cm，樹種オニグルミ
51. 垂木　長51.2cm，幅6.6cm，厚5.9cm，樹種ナシ亜科

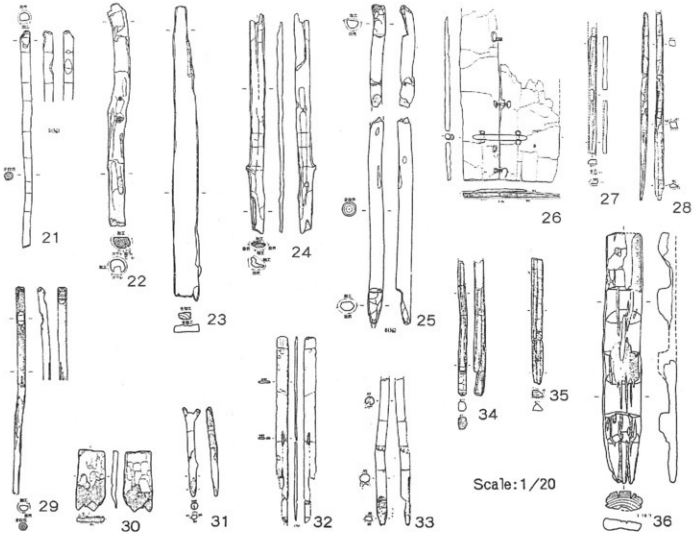
11 遺跡名：中在家南遺跡　所在地：宮城県仙台市　時期：X期（古墳時代中期）①



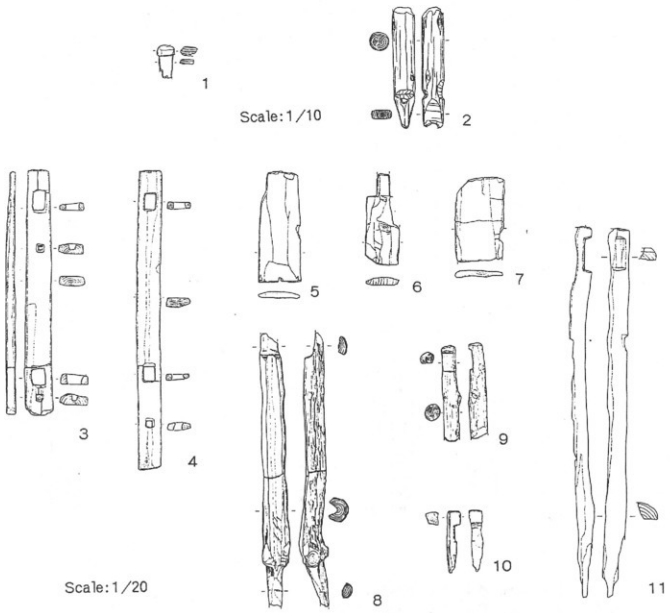
1．貫通孔のある板材　長155.2cm，幅23.6cm，厚6.0cm，樹種モミ属
2．貫通孔のある断面L字形板材　長161.5cm，幅11.5cm，高10.0cm，樹種ケンポナシ
3．凹受け直柱　長194.4cm，幅16.0cm，厚12.0cm，樹種ケンポナシ
4．欠込みのある材　長95.2cm，幅9.8cm，厚9.4cm，樹種クリ
5．板材　長59.6cm，幅6.6cm，厚1.9cm，樹種ニガキ
6．貫通孔のある板材　長39.0cm，幅6.2cm，厚2.4cm，樹種コナラ節
7．角材　長64.2cm，幅5.1cm，厚2.7cm，樹種コナラ節
8．欠込みのある板材　長54.5cm，幅4.3cm，厚3.0cm，樹種クリ
9．垂木　長96.3cm，幅4.1cm，厚4.1cm，樹種ハンノキ属
10．垂木　長72.6cm，幅5.5cm，厚5.8cm，樹種ウコギ科



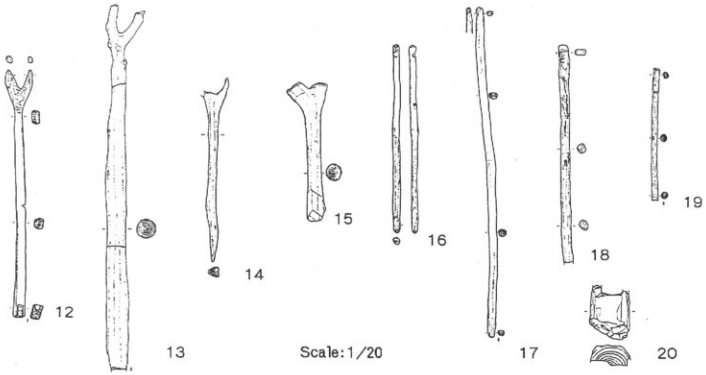
11. 角材　長176.0cm，幅15.2cm，厚11.0cm，樹種クリ
12. 角材　長124.9cm，幅8.7cm，厚6.4cm，樹種ハンノキ節
13. 梯子　長112.4cm，幅18.0cm，厚8.4cm，樹種モクレン属
14. 角材　長39.7cm，幅6.6cm，厚7.7cm，樹種ハンノキ節
15. 貫通孔のある板材　長81.6cm，幅26.6cm，厚3.6cm，樹種ケヤキ
16. 貫通孔のある材　長140.2cm，幅18.8cm，厚6.4cm，樹種クリ
17. 欠込みのある板材　長158.0cm，幅16.0cm，厚4.0cm，樹種クリ
18. 垂木　長220.5cm，直径6.0cm，樹種クリ
19. 垂木　長208.0cm，直径6.2cm，樹種クヌギ節
20. 板材　長234.5cm，幅17.5cm，厚3.5cm，樹種クリ

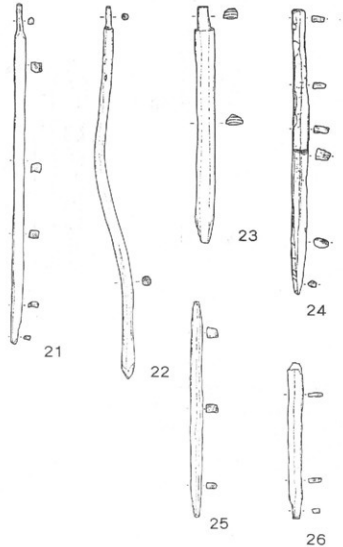


21. 垂木　長114.0cm，直径5.2cm，樹種ニレ属
22. 垂木　長117.2cm，直径9.2cm，樹種クヌギ節
23. 板材　長154.6cm，幅13.2cm，厚3.8cm，樹種クリ
24. 板材　長115.4cm，幅7.6cm，厚3.2cm，樹種ヤマザクラ
25. 垂木　長162.8cm，直径7.2cm，樹種ハンノキ節
26. 貫通孔のある板材（壁材）　長90.8cm，幅49.6cm，厚2.6cm，樹種ケヤキ　横木はクヌギ節
27. 貫通孔のある材　長63.1cm，幅4.5cm，厚2.3cm，樹種モミ属
28. 角材　長98.5cm，幅4.8cm，厚3.7cm，樹種クヌギ節
29. 垂木　長110.0cm，直径4.4cm，樹種ヤマグワ
30. 板材　長32.4cm，幅14.3cm，厚2.7cm
31. 又受け直柱　長47.3cm，幅3.6cm，厚3.5cm，樹種カエデ属
32. 貫通孔のある板材　長98.6cm，幅6.1cm，厚1.2cm，樹種クリ
33. 垂木　長78.7cm，幅5.2cm，厚4.7cm，樹種イヌシデ節
34. 垂木　長71.3cm，幅4.5cm，厚6.3cm，樹種クヌギ節
35. 角材　長66.9cm，幅6.0cm，厚3.9cm，樹種クヌギ節
36. 梯子　長132.5cm，幅20.0cm，厚9.0cm，樹種クリ

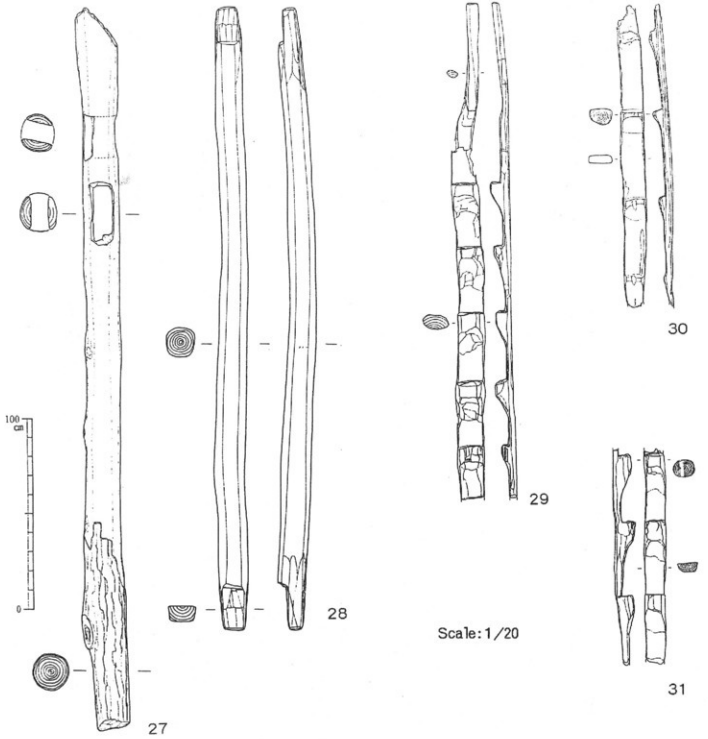


1．栓　長8.5cm，幅4.5，厚2.4 樹種アサダ
2．欠込みのある材　長31.0cm，幅5.6cm，厚4.2cm，樹種モミ属
3．貫通孔のある材　長128.3cm，幅15.1cm，厚5.8cm
4．貫通孔のある材　長155.7cm，幅12.1cm，厚5.0cm，樹種ハンノキ節
5．板材　長59.0cm，幅21.5cm，厚3.2cm
6．ほぞのある板材　長48.2cm，幅17.3cm，厚4.0cm，樹種アサダ
7．板材　長45.1cm，幅25.6cm，厚3.9cm，樹種ケヤキ
8．欠込みのある材　長143.0cm，幅13.0cm，厚12.0cm，樹種オニグルミ
9．欠込みのある材　長50.0cm，幅9.4cm，厚8.6cm，樹種モミ属
10．欠込みのある材　長32.3cm，幅7.5cm，厚6.5cm，樹種クリ
11．欠込みのある材　長192.6cm，幅10.2cm，厚11.3cm



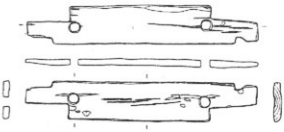


12. 欠込みのある又受け直柱　長128.9cm，幅4.6cm，厚6.9cm，樹種ヤナギ属
13. 又受け直柱　長202.0cm，幅21.2cm，厚10.8cm
14. 又受け直柱　長95.6cm，幅13.2cm，厚6.0cm
15. 又受け直柱　長86.0cm，幅25.0cm，厚11.0cm
16. 垂木　長98.7cm，直径4.0cm
17. 垂木　長170.1cm，直径4.1cm，樹種ヤマグワ
18. 垂木？　長56.8cm，直径2.6cm，樹種ハンノキ節
19. 垂木　長69.1cm，直径3.3cm，樹種ミツバウツギ
20. 貫通孔？のある材　長28.3cm，幅21.5cm，厚10.5cm，樹種クヌギ節
21. ほぞのある材　長184.2cm，幅5.8cm，厚5.1cm，樹種モミ属
22. ほぞのある材　長193.0cm，幅7.0cm，厚4.0cm
23. ほぞのある材　長112.3cm，幅10.0cm，厚6.0cm
24. 角材　長152.6cm，幅8.0cm，厚5.7cm，樹種クヌギ節
25. 角材　長112.7cm，幅5.4cm，厚5.4cm，樹種クリ
26. 角材　長81.9cm，幅7.3cm，厚2.4cm，樹種モミ属



27. 貫通孔のある柱材　長382.0cm，幅23.0cm，厚20.0cm
28. 両端に欠込みのある材 長328.0cm，直径15.0cm
29. 梯子　長258.3cm，幅15.5cm，厚10.2cm，樹種クヌギ節
30. 梯子　長157.9cm，幅12.1cm，厚8.3cm，樹種クリ
31. 梯子　長111.6cm，幅11.0cm，厚10.2cm，樹種クリ

13 遺跡名：押口遺跡　所在地：宮城県仙台市　時期：Ⅺ期（古墳時代後期）

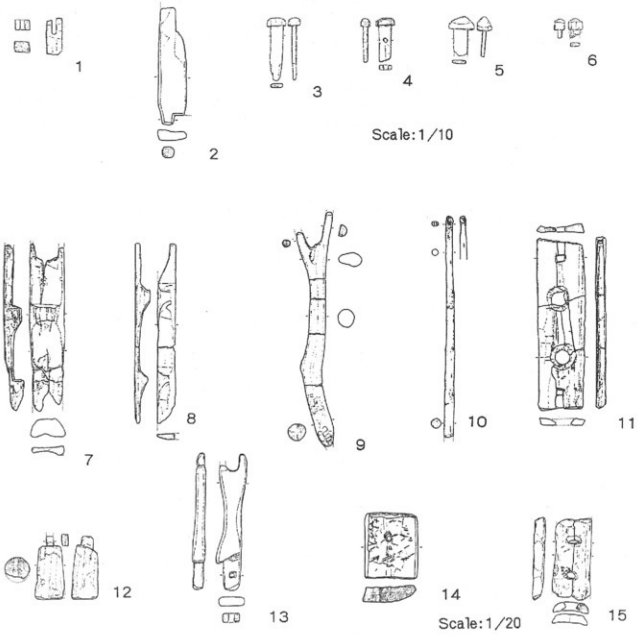


Scale:1/20

1

1．鍬放し　長118.5cm，幅20.6cm，厚3.5cm，樹種クリ

14 遺跡名：山王遺跡　所在地：宮城県多賀城市　時期：Ⅺ期（古墳時代後期）



1．欠込みのある材　長約9.6cm，幅約5.2cm，厚約2.8cm
2．扉板？　長約28cm，幅7.2cm，厚3cm
3．栓　長16.6cm，幅4.8cm，厚3.1cm
4．貫通孔のある栓　長11.6cm，幅5.1cm，厚2.5cm
5．貫通孔のある栓　長10.2cm，幅6.5cm，厚3.9cm
6．栓　長5.2cm，幅3.4cm，厚2.7cm
7．梯子　長88.2cm，幅18cm，厚4.5cm
8．梯子　長95.4cm，幅約9cm，厚約3cm
9．又受け直柱　長126cm，直径約9cm
10．貫通孔のある材、垂木？　長117cm，直径約5cm
11．貫通孔のある板材　長約92cm，幅25cm，厚5cm
12．ほぞのある材　長約28cm，直径約15cm
13．又受けと貫通孔のあるほぞをもつ部材　長72cm，幅13.5cm，厚約9cm，樹種クヌギ節
14．貫通孔のある板材　長35.1cm，幅28.0cm，厚約8cm
15．貫通孔のある板材　長約44cm，幅約20cm，厚約5.5cm

15 遺跡名：台遺跡　所在地：宮城県蔵王町　時期：Ⅺ期（古墳時代後期）

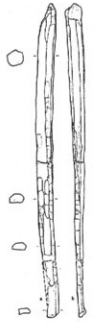
1

2

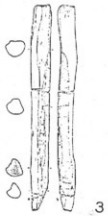
1．貫通孔のある材　法量不明
2．貫通孔のある材　法量不明

16 遺跡名：高田B遺跡　所在地：宮城県仙台市　時期：Ⅺ期（古墳時代後期）

1



2



3

Scale:1/20

1．貫通孔のある材　長69.5cm，幅7.7cm，厚5.3cm，樹種クリ
2．材　長165.4cm，幅8.5cm，高8.1cm，樹種オニグルミ
3．材　長107.2cm，幅10.4cm，厚8.8cm，樹種カエデ属

山形県の概要

竹田純子・高桑弘美

山形県の建築材・建築技術を検討できる出土資料としては、柱材などの施設部材と集合施設材（水場遺構と考えられる木組施設・焼失家屋などの住居内集合炭化材）がある。弥生時代の出土例は、現在のところ確認できず、縄文時代と古墳時代のものが認められる。山形県内では古墳時代の焼失家屋が多数検出されている。焼失家屋は、精査によって建築材のあり方が明らかになると考えられるため資料提示を行う。

県内では、低湿地に打込方式によって立てられた掘立柱建物を多く検出しているが、建築部材としての研究は進んでいない。近年、扇状地先端部での調査が多数行われており、部材を含む木製品の出土数が急増している。現在整理が行われており、今後資料の蓄積が予想される。これまで分析されていない資料も含めて、詳細な研究はこれからとなる。

縄文時代

遊佐町小山崎遺跡・高畠町押出遺跡・朝日町上川原山ノ神遺跡・寒河江市高瀬山遺跡から建物跡・水場遺構に伴う部材が出土している。

小山崎遺跡からは、前期の仕口のある棒状のもの（1）や反りのある板状のもの（2）、後期の横架材（3）が出土した。反りのある木製品（2）は、富山県桜町遺跡で報告された網代壁と類似する。押出遺跡からは、前期の打込式の掘立柱建物跡が検出されており、多数の木柱が見つかっている。円形・楕円形等の建物であり、床の一部には根太を敷いている。上川原山ノ神遺跡では、中期の掘立柱が検出されており、柱穴からは柱の支えとした板材も出土している。大規模な建物あるいは木柱列の存在が推測されている。

集合施設材としては、高瀬山遺跡・小山崎遺跡の水場遺構があげられる。高瀬山遺跡では、後期・晩期の水場遺構５基が検出されている。水場遺構は検出されや調査区は、遺物の希薄な部分を境として東側と西側に二分される。東側では晩期の木組み意向（大洞ＢＣ式期）と石組み遺構（大洞Ｃ２式期）が各１基、その下層から後期中葉宝ヶ峯式期の木組み遺構が重層して２基検出された。西側では、晩期後葉大洞Ａ（新）式期の木組み遺構１基と奈良・平安時代の木道状の施設が検出された。水場遺構は、湧水を利用した作業用も施設と考えられ、トチの果皮が多量に出土したことからトチ加工に関与するとみられる。木組みと石組みの２種からなり、石組み下部構造を縦横交互に積み重ね、矩形に構築する井桁状地形が、湿地の足場としての一般的な構築技法であったことが指摘されている。構造材の 90%以上がクリ材を使用し、ほかにコナラなどがある。構造材は、丸太材、ほぞ穴を持つ転用材の使用が認められる。晩期石組み遺構の西側では、クリの丸太材の芯を刳り貫いた木樋状木製品が出土しており、筧としての使用の可能性が考えられている。現在整理中であり、詳細は報告書の刊行を待ちたい。小山崎遺跡では、後期から晩期にかけての石敷遺構が検出されている。トチなどの果皮が多く出土していることから水場遺構と考えられる。石敷きの先端に木柱が並んで検出されており、水場遺構を構成する部材である可能性が高い。木柱はクリ材である。木柱付近では、棒状の材も多く出土しており、これらも構造材であると考えられる。

古墳時代前期

山形県長表遺跡・山形県藤治屋敷跡より施設部材が検出され、山形市今塚遺跡より焼失家屋と河川内の木組遺構が検出されている。

長表遺跡では２棟の棟持柱建物跡が検出されている。６本の柱を基調とする１×１間の建物構造で、梁中央部の柱がやや外に張り出し棟持柱となる。棟持柱を支える梁行が桁行より長い特異な形態であり、柱穴部底面から礎板（１～11）が確認された。礎板には板材や鼠返しの部材が転用されている。また、河川跡より扉関連材（蹴放し・□）と考えられる部材（12）が出土している。両端を欠損しているものの、中央部に扉の振れを防止するための突起があり、扉の回転軸を入れる軸穴も確認できる。藤治屋敷遺跡では、梯子（１～３）、壁材などの可能性がある板材（４～11・32）、杭などの棒状の材（12～31）が出土している。施設部材以外の木製品も多く見つか

っているが、木製品資料全体に占める部材の割合は少ない。

今塚遺跡の木組遺構は、河川より水を引くための用水路跡と考えられ、水路中央部に1.2m前後の杭を打ち込み、ほぞ穴をあけた丸太材の横木と組んだ状態で検出されている。横木に直行する材や倒れた杭も見られ、木組全体の長さは4.4mに及ぶ。

古墳時代中期

鶴岡市山田遺跡の河川跡より欠込みのある板材や棒状の材(1～4)の出土が報告されている。山形市渋江遺跡・山形市下柳遺跡A遺跡より焼失家屋が検出されている。また、天童市蔵増押切遺跡では中期から後期の焼失家屋が検出されている。

古墳時代後期

天童市西沼田遺跡・山形市嶋(島)遺跡より建物跡に伴う施設部材が出土している。

西沼田遺跡では、貫通穴のある施設部材等(1～4)が出土している。平地式建物跡と高床式建物跡が検出され、すべて打込式の柱である。平地式建物には、一部に籾殻を敷き詰めその上に根太を敷いているものがある。報告書によれば、又受け直柱または凹受け直柱が多数検出されており、梯子も1点出土している。嶋(島)遺跡では、又受け直材(1・2)、凹受け直材(3・8)、欠込みのある材(4～7)、梯子(9)、礎板または鼠返し(10)、貫通穴のある材(11)、栓(12～14)が出土している。木柱は、西沼田遺跡と同様に打込式であったことが想定されており、高床式建物跡などが検出されている。

1　仕口・接ぎ一覧表

時代	貫　穴	仕　口（ほぞ）	欠　込
Ⅰ時代時代草創期～早期	△	△	△
Ⅱ縄文時代前期	△	○	△
Ⅲ縄文時代中期	△	△	△
Ⅳ縄文時代後期	△	△	△
Ⅴ縄文時代晩期	△	△	△
Ⅵ～Ⅷ弥生時代前期～古墳時代初頭	△	△	△
Ⅸ古墳時代前期	○	○	○
Ⅹ古墳時代中期	△	△	○
ⅩⅠ古墳時代後期～飛鳥・藤原時代	○	△	○

2　柱材一覧表

時　代	又受け直材	凹受け直材	横架材	壁床材
Ⅰ時代時代草創期～早期	△	△	△	△
Ⅱ縄文時代前期	△	△	△	○
Ⅲ縄文時代中期	△	△	△	△
Ⅳ縄文時代後期	△	△	○	△
Ⅴ縄文時代晩期	△	△	△	△
Ⅵ～Ⅷ弥生時代前期～古墳時代初頭	△	△	△	△
Ⅸ古墳時代前期	△	△	△	△
Ⅹ古墳時代中期	△	△	△	△
ⅩⅠ古墳時代後期～飛鳥・藤原時代	○	○	△	○

3　特定部位材一覧表

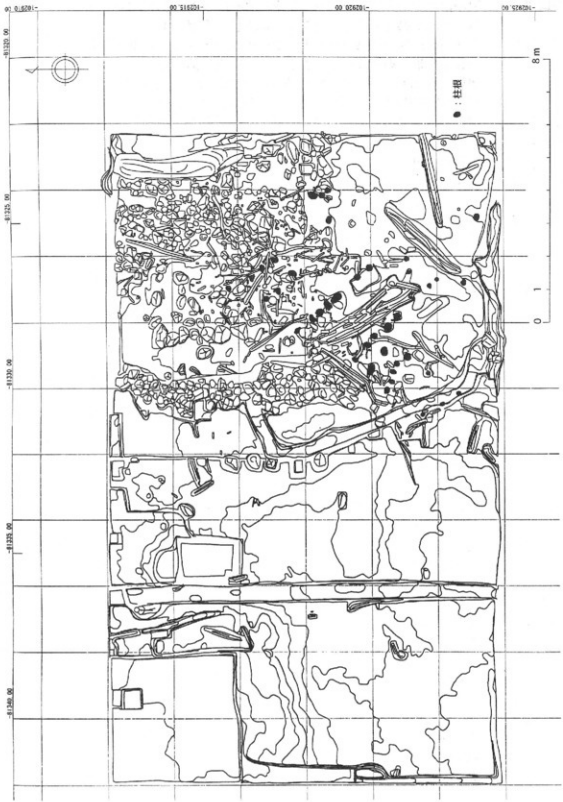
時　代	扉関連材	礎板	鼠返し	梯子	栓
Ⅰ時代時代草創期～早期	△	△	△	△	△
Ⅱ縄文時代前期	△	△	△	△	△
Ⅲ縄文時代中期	△	△	△	△	△
Ⅳ縄文時代後期	△	△	○	△	△
Ⅴ縄文時代晩期	△	△	△	△	△
Ⅵ～Ⅷ弥生時代前期～古墳時代初頭	△	△	△	△	△
Ⅸ古墳時代前期	○	○	○	○	△
Ⅹ古墳時代中期	△	△	△	△	△
ⅩⅠ古墳時代後期～飛鳥・藤原時代	△	○	○	○	○

掲載遺跡一覧

No.	遺跡名	文献名	備考
1	小山崎遺跡	財団法人山形県埋蔵文化財センター2000『小山崎遺跡調査説明資料』	
2	押出遺跡	山形県教育委員会 1985『押出遺跡第１次調査説明会資料』 山形県教育委員会 1986『押出遺跡第２次調査説明会資料』 山形県教育委員会 1987『押出遺跡第３次調査説明会資料』	
3	上川原山ノ神遺跡	山形県教育委員会 2000『分布調査報告書（26）』	

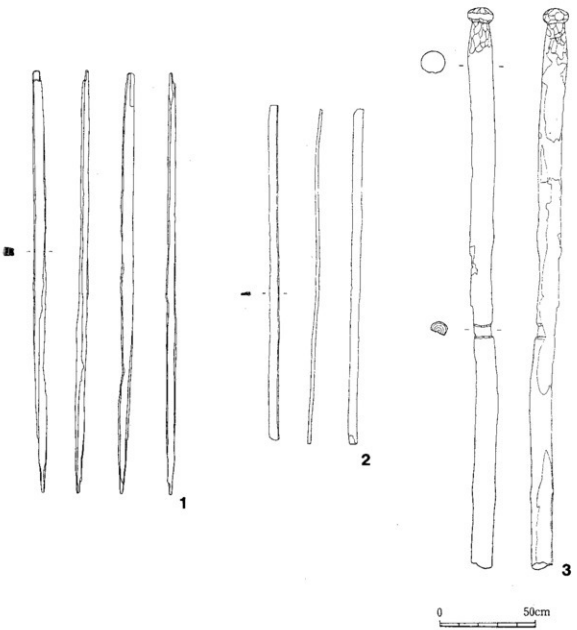
4	高瀬山遺跡（HO）	小林圭一 2003「山形県　高瀬山遺跡の水場遺構」『縄文人の台所・水さらし場遺構を考える―縄文人は水とどうかかわってきたか―』青森市教育委員会	
5	今塚遺跡	財団法人山形県埋蔵文化財センター1994『今塚遺跡発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財センター調査報告書第７集	
6	長表遺跡	財団法人山形県埋蔵文化財センター2001『長表遺跡発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財センター調査報告書第 87 集 植松暁彦 2004「長表遺跡の古墳時代前期の棟持柱建物跡について」『研究紀要第２号』財団法人山形県埋蔵文化財センター	
7	藤治屋敷遺跡	財団法人山形県埋蔵文化財センター2004『服部遺跡・藤治屋敷遺跡第２次発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財センター調査報告書第 119 集	
8	渋江遺跡	財団法人山形県埋蔵文化財センター2004『渋江遺跡第２・３次発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財センター調査報告書第 124 集 財団法人山形県埋蔵文化財センター2002『渋江遺跡第４次発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財センター調査報告書第 106 集	
9	下柳Ａ遺跡	財団法人山形県埋蔵文化財センター1996『蔵増押切遺跡発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財センター調査報告書第 38 集	
10	山田遺跡	財団法人山形県埋蔵文化財センター1994『山田遺跡発掘調査報告書（I～K・M１区）』山形県鶴岡市埋蔵文化財調査報告書第 21 集	
11	蔵増押切遺跡	財団法人山形県埋蔵文化財センター2003『蔵増押切遺跡発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財調査報告書第 112 集	
12	西沼田遺跡	山形県教育委員会 1986『西沼田遺跡発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財調査報告書第 101 集	
13	嶋（島）遺跡	山形県教育委員会 1963『島遺跡調査報告』 山形県教育委員会 1964『島遺跡』 山形市史編纂委員会 1968『山形市史　別巻１　嶋遺跡』	
14	願正壇遺跡	山形県教育委員会 1984『願正壇遺跡発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財調査報告書第 81 集	柱材
14	上新田遺跡	米沢市教育委員会 1993『上新田Ａ遺跡発掘調査報告書第２集』 米沢市埋蔵文化財調査報告書第 39 集	杭材
15	板橋２遺跡	財団法人山形県埋蔵文化財センター1999『板橋２遺跡第２次調査説明資料』	建築部材（ほぞのある材）
16	馬洗場Ｂ遺跡	財団法人山形県埋蔵文化財センター1999『板橋２遺跡第２次調査説明資料』	河川木組　建築部材（ほぞのある材・欠込みのある材・梯子ほか）
17	菖蒲江１遺跡	財団法人山形県埋蔵文化財センター20002『菖蒲江１遺跡第２次発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財センター調査報告書第 105 集	焼失家屋
18	高擶南遺跡	財団法人山形県埋蔵文化財センター20002『高擶南遺跡遺跡第２次調査説明資料』	焼失家屋　建築部材

1 遺跡名 小山崎遺跡　　所在地 山形県遊佐町 縄文時代早期～晩期



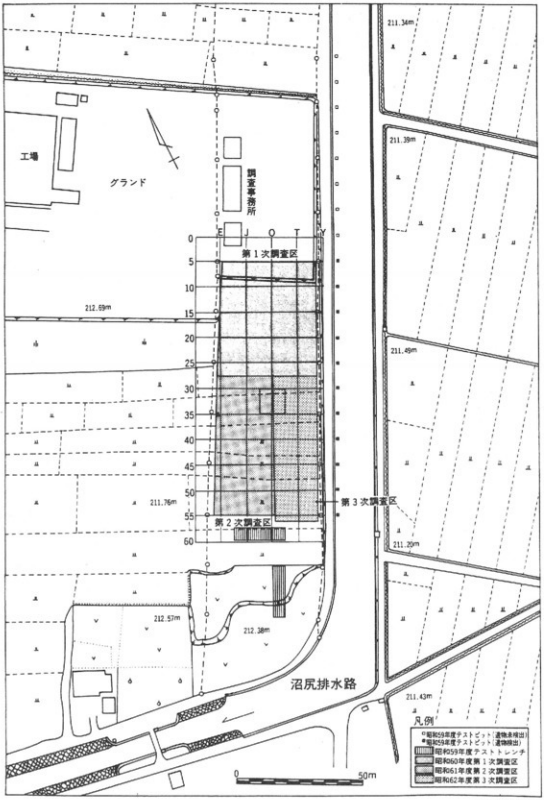
水場遺構平面図

1 遺跡名 小山崎遺跡　　所在地 山形県遊佐町 縄文時代早期～晩期



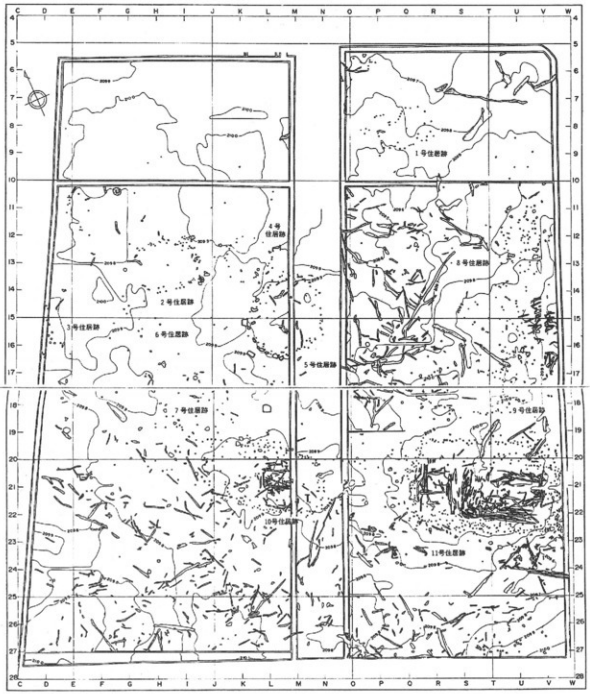
1 ほぞのある材　長108.1cm　幅3.3cm　厚2.2cm　分割　材不明
2 壁床材　長86.0cm　幅2.5cm　厚0.9cm　分割　スギ
3 横架材　長147.0cm　幅6.2cm　厚5.9cm　芯持ち　ツバキ

2 遺跡名 押出遺跡　　所在地 山形県高畠町 縄文時代前期



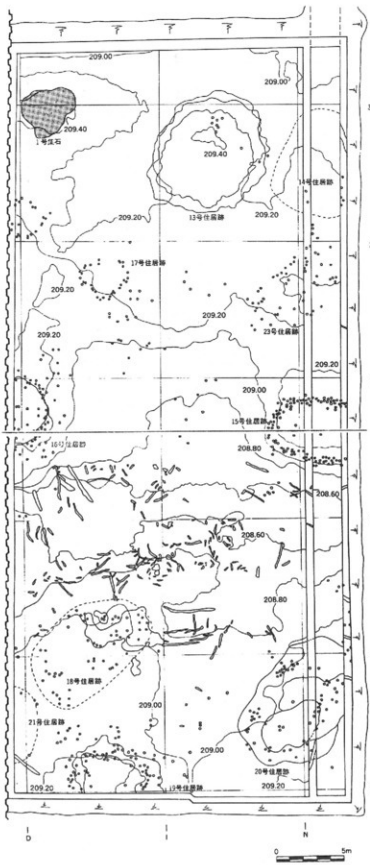
遺跡全体図

2 遺跡名 押出遺跡　　所在地 山形県高畠町 縄文時代前期

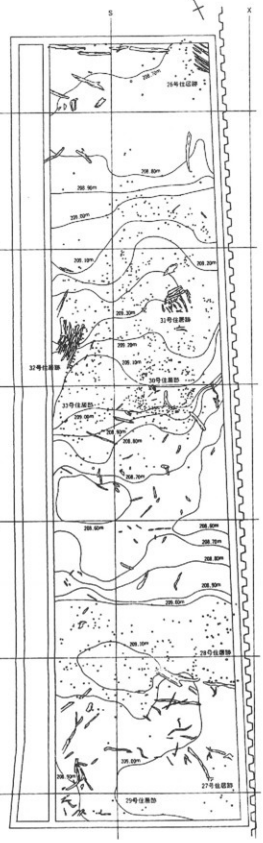


第1次調査区全体図

2 遺跡名 押出遺跡　所在地 山形県高畠町 縄文時代前期

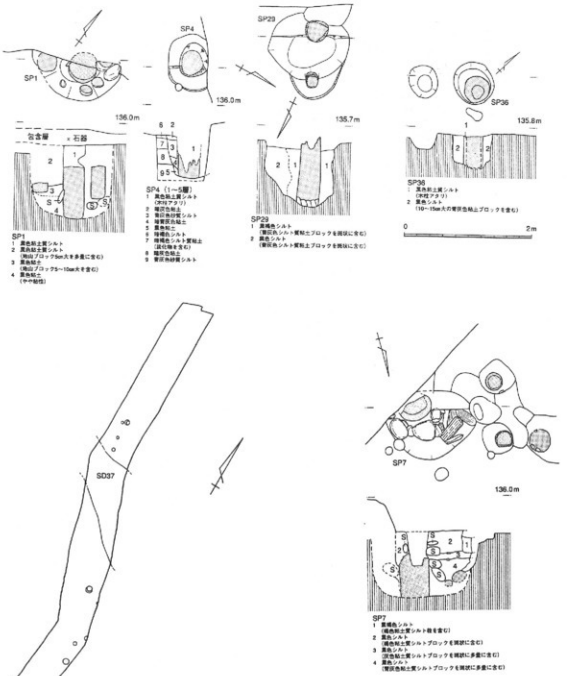


第 2 次調査区全体図

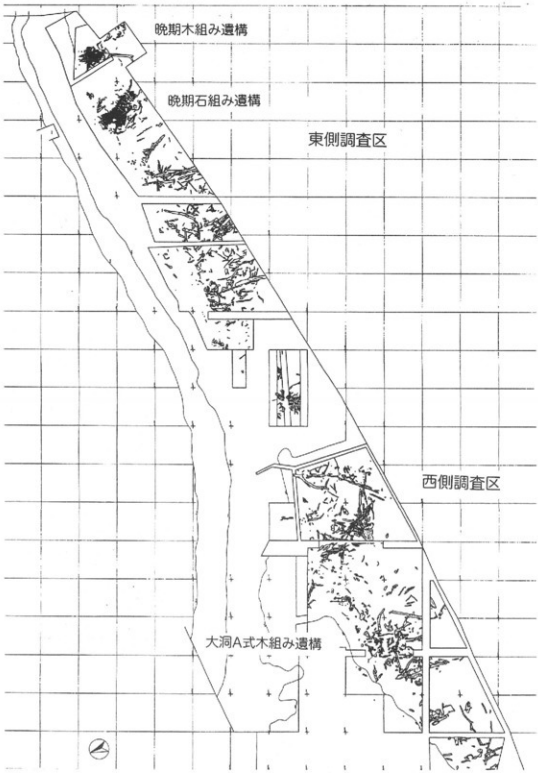


第 3 次調査区全体図

3 遺跡名 上川原山ノ神遺跡 所在地 山形県朝日町 縄文時代中期

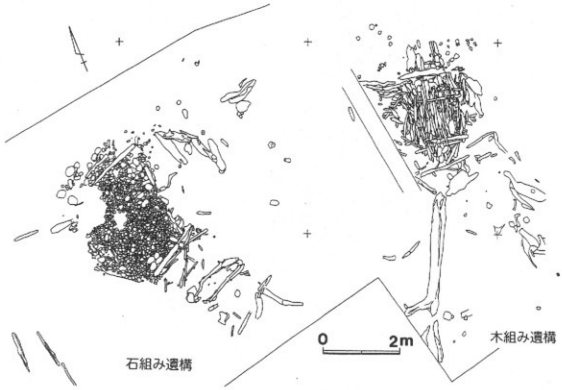


4 遺跡名 高瀬山遺跡(HO)　所在地 山形県寒河江市 縄文時代後期～晩期

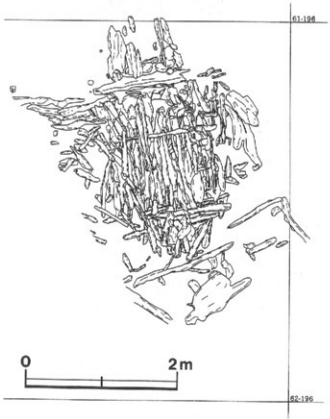


高瀬山遺跡水場遺構全体図

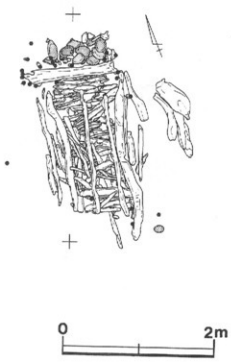
4 遺跡名 高瀬山遺跡(HO) 所在地 山形県寒河江市 縄文時代後期～晩期



木組み・石組み遺構配置図（縄文時代晩期）

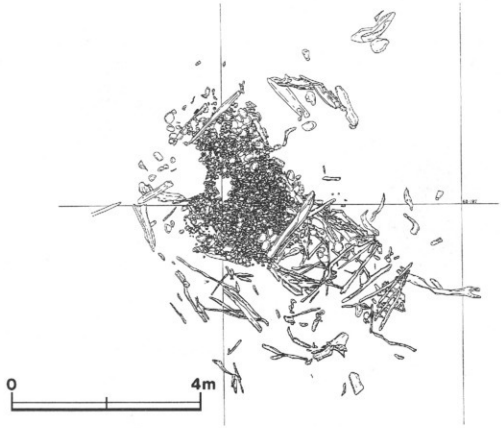


晩期木組み遺構　1段目

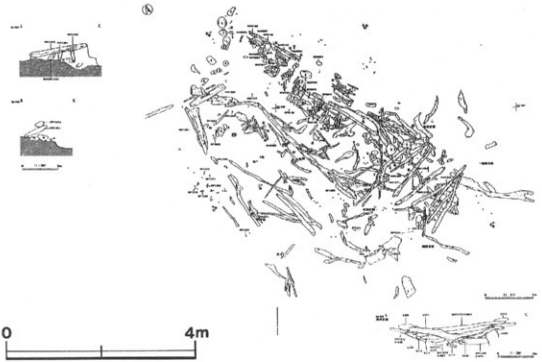


晩期木組み遺構　4段目

4 遺跡名 高瀬山遺跡(HO) 所在地 山形県寒河江市 縄文時代後期～晩期

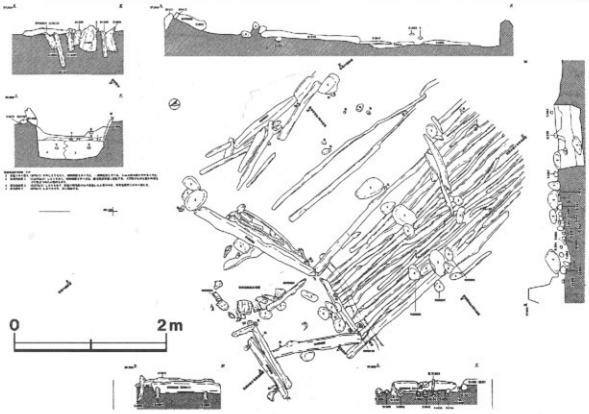


晩期石組み遺構　第１面

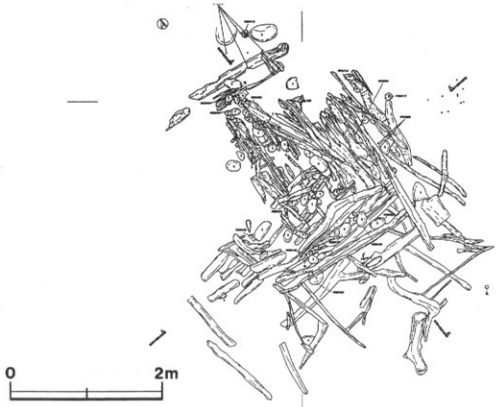


晩期石組み遺構　第４面

4 遺跡名 高瀬山遺跡(HO) 所在地 山形県寒河江市 縄文時代後期～晩期

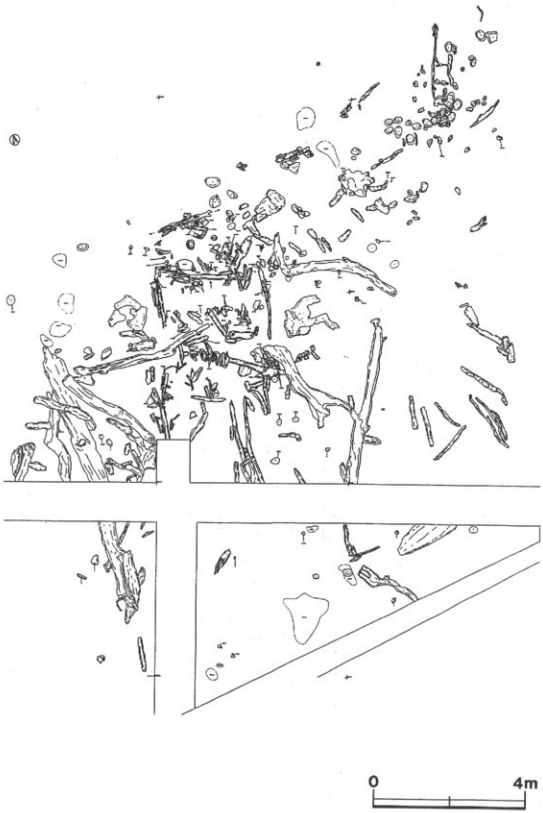


後期２号木組み遺構　２段目



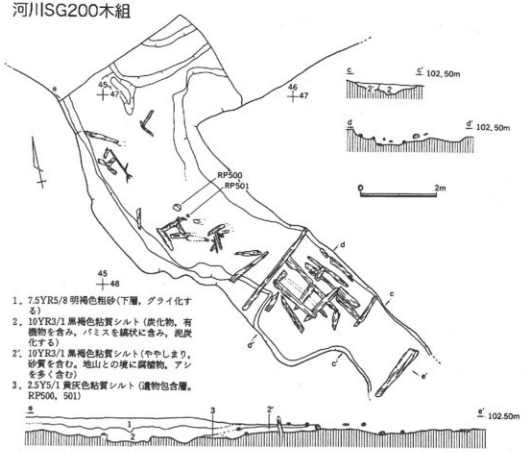
後期１号木組み遺構　１段目

4 遺跡名 高瀬山遺跡(HO) 所在地 山形県寒河江市 縄文時代後期～晩期



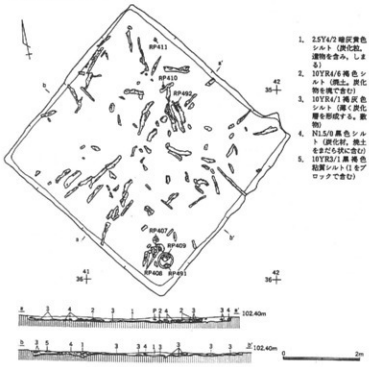
西側調査区大洞A （新）式木組み遺構

河川SG200木組

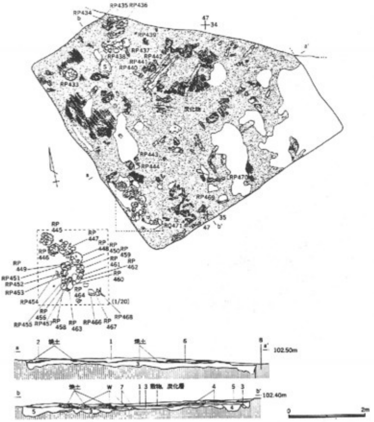


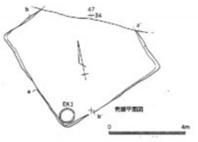
SG200河川跡木組

焼失家屋ST7



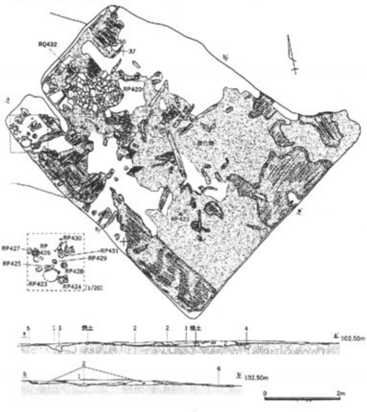
焼失家屋ST702





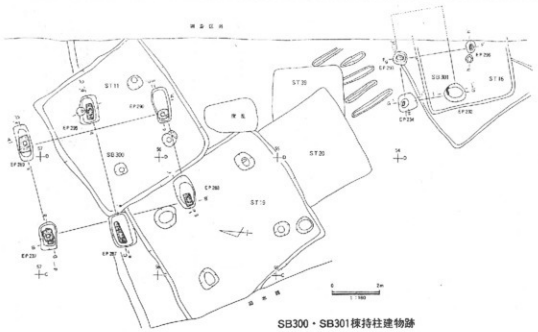
1. 2.5Y4/1 黄灰色シルト（炭化物、焼土を多く含み，床面に1㎝程の植物性繊維敷物，炭化層を形成する）
2. 5Y7/1 灰白色細砂（炭化粒を含み，3との間に，薄く炭化層をつくる）
3. 5Y4/1 灰色粘質シルト（貼床部。炭化粒を含む。地山，砂層のため，境が明確である）
4. 2.5Y4/1 黄灰色微砂（10Y5/1 灰色粗砂（地山）を多く含む）
5. 2.5Y4/1 黄灰色シルト（炭化粒を若干含み，2が下層に1㎝程，層をつくる）
6. 5Y5/1 灰色細砂（2と同質）
7. 5Y5/1 灰色微砂（炭化粒を含み，地山，粗砂を含む）
8. 2.5Y4/1 黄灰色シルト（旧排水路。玉石を含み，撹乱をうける）

焼失家屋ST708

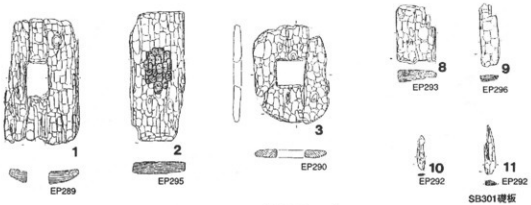


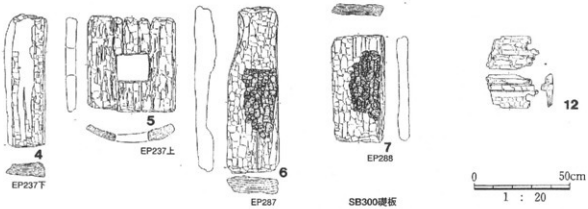
1. 5Y4/1 灰色シルト（炭化粒を若干含み，しまる）
2. 2.5Y4/2 暗灰黄色微砂（炭化粒・炭化材，焼土をブロックで含み，1より暗い）
3. 10YR4/1 褐灰色シルト（炭化粒・焼土を多く含む）
4. 2.5Y5/1 黄灰色シルト（炭化粒を細かく含む）
5. 2.5Y5/2 暗灰黄色シルト（ST707。炭化層を形成し，炭化粒を若干含む。5Y6/1 灰色シルトをブロックで含む）
6. 10YR4/1 褐灰色粘質シルト

6 遺跡名 長表遺跡　　所在地 山形県山形市 古墳時代前期



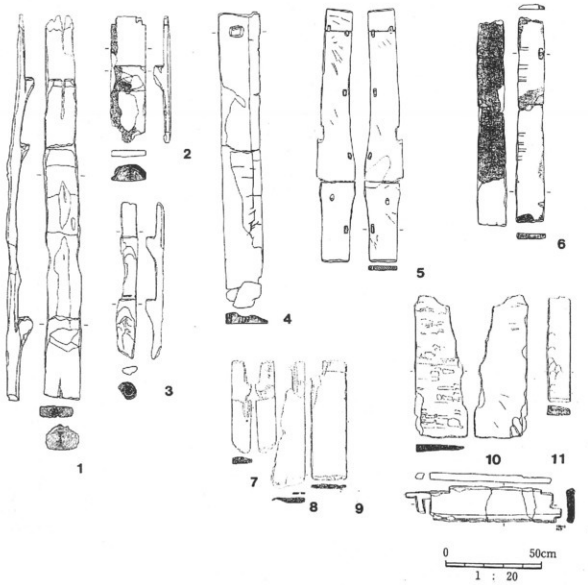
SB300・SB301棟持柱建物跡





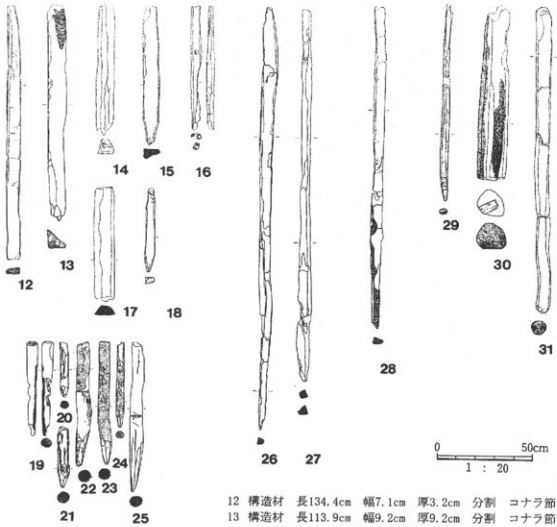
1　礎板　長 66cm　幅 39cm　厚 6.0cm　鼠返し転用　ケンポナシ材
2　礎板　長 69cm　幅 30cm　厚 7.0cm　クリ材
3　礎板　長 52cm　幅 38cm　厚 3.0cm　鼠返し転用　ウルシ材
4　礎板　長 71cm　幅 22cm　厚 8.0cm　コナラ材
5　礎板　長 50cm　幅 46cm　厚 6.0cm　鼠返し転用　ケンポナシ材
6　礎板　長 87cm　幅 27cm　厚 9.0cm　コナラ材
7　礎板　長 57cm　幅 27cm　厚 6.0cm　コナラ材
8　礎板　長 31cm　幅 20cm　厚 6.0cm　コナラ材
9　礎板　長 34cm　幅 10cm　厚 3.0cm　ウルシ材
10　礎板　長 18cm　幅 3.0cm　厚 1.0cm　コナラ材
11　礎板　長 26cm　幅 5.0cm　厚 3.0cm　コナラ材
12　礎放し　長 25cm　幅 18cm　厚 6.0cm　ハンノキ材

7 遺跡名 藤治屋敷遺跡　所在地 山形県山形市　古墳時代前期



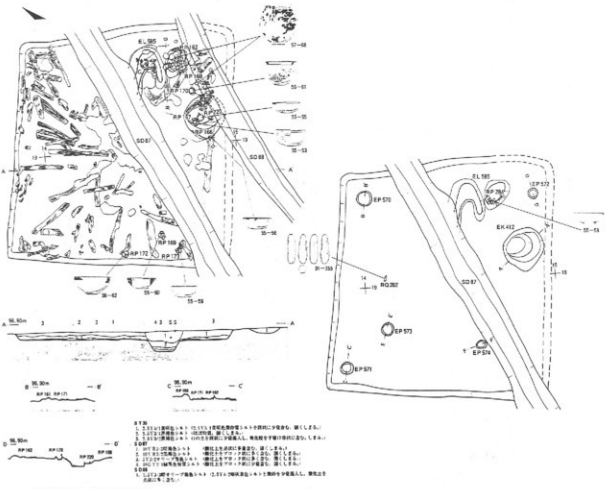
1　梯子　長165cm　幅7cm　厚5.3cm　芯持ち削り出し　材不明
2　梯子　長100.1cm　幅4.3cm　厚3.1cm　半截削り出し　ケンポナシ属
3　梯子　長91.4cm　幅15.7cm　厚13.4cm　芯持ち削り出し　コナラ節
4　ほぞのある材　板状　長155.6cm　幅22.1cm　厚5.8cm　柾目　カエデ属
5　貫穴と欠込のある材　板状　長132.1cm　幅20cm　厚2.2cm　板目　トネリコ属
6　貫穴のある材　板状　長107.9cm　幅15.3cm　厚3.1cm　柾目　コナラ節
7　板状　長49.3cm　幅10.2cm　厚3.4cm　柾目　トネリコ属
8　貫穴のある材　板状　長65.7cm　幅17.3cm　厚2.9cm　柾目　エノキ属
9　板状　長63.3cm　幅18.5cm　厚2.4cm　柾目　オニグルミ
10　板状　長75.1cm　幅27.6cm　厚3.8cm　柾目　コナラ節
11　板状　長56.6cm　幅12.1cm　厚5cm　板目　コナラ節
32　板状　長81.3cm　幅18.2cm　厚4.5cm　板目　ヤナギ属

7 遺跡名 藤治屋敷遺跡　所在地 山形県山形市　古墳時代前期

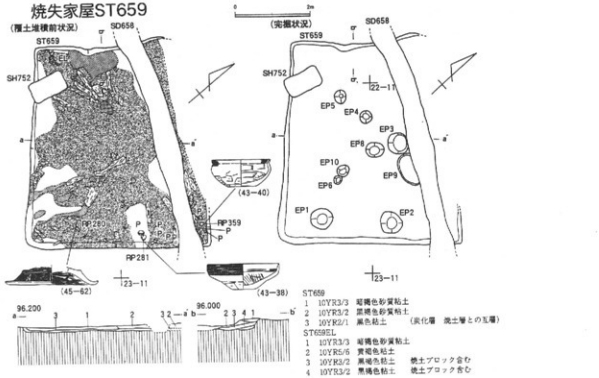


12 構造材　長134.4cm　幅7.1cm　厚3.2cm　分割　コナラ節
13 構造材　長113.9cm　幅9.2cm　厚9.2cm　分割　コナラ節
14 構造材　長68.5cm　幅9.5cm　厚7.8cm　分割　サワグルミ
15 構造材　長72.8cm　幅8.5cm　厚5.1cm　分割　コナラ節
16 貫穴のある材　構造材　長65.3cm　幅5.6cm　厚3.6cm　分割　トネリコ属
17 構造材　長60.4cm　幅10.8cm　厚5.3cm　分割　ケヤキ
18 構造材　長44cm　幅5.4cm　厚3.4cm　分割　コナラ節
19 構造材　長49.7cm　幅6.1cm　厚4.6cm　分割　コナラ節
20 杭材　長29.1cm　幅4.7cm　厚3.9cm　丸太材　ニレ属
21 杭材　長32.3cm　幅6.2cm　厚6cm　丸太材　サワグルミ
22 杭材　長66.1cm　幅6.5cm　厚6.1cm　丸太材　カエデ属
23 杭材　長64.9cm　幅5.9cm　厚5.7cm　丸太材　不明
24 杭材　長44.9cm　幅4.3cm　厚3.6cm　丸太材　不明
25 杭材　長78cm　幅6.3cm　厚5.3cm　丸太材　ヤナギ属
26 構造材　長220cm　幅8.1cm　厚4.3cm　分割　コナラ節
27 構造材　長194.5cm　幅6.7cm　厚4.7cm　分割　クヌギ節
28 構造材　長165cm　幅7cm　厚5.3cm　分割　コナラ節
29 構造材　長100.1cm　幅4.3cm　厚3.1cm　分割　ヤマグワ
30 竿のある材　構造材　長91.4cm　幅15.7cm　厚13.4cm　分割　クヌギ節
31 構造材　長160.3cm　幅8.2cm　厚7.2cm　芯持ち削り出し　カエデ属

焼失家屋ST35



焼失家屋ST659

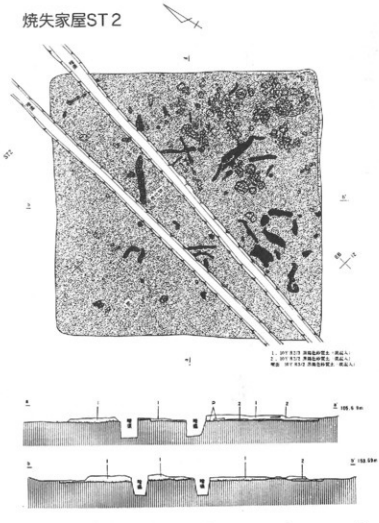


ST659
1 10YR3/3 暗褐色砂質粘土
2 10YR3/2 黒褐色砂質粘土
3 10YR2/1 黒色粘土　(炭化層　焼土等との互層)

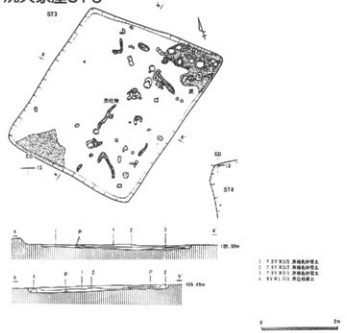
ST659EL
1 10YR3/3 暗褐色砂質粘土
2 10YR5/6 黄褐色粘土
3 10YR3/2 黒褐色粘土　焼土ブロック含む
4 10YR3/2 黒褐色粘土　焼土ブロック含む

9 遺跡名 下柳A遺跡　　所在地 山形県山形市　古墳時代中期

焼失家屋ST2

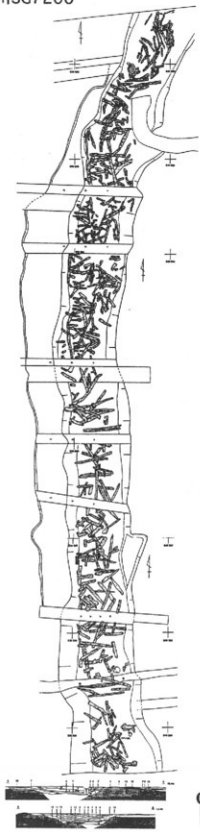


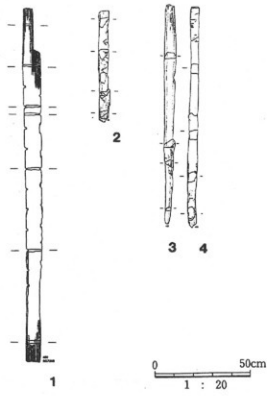
焼失家屋ST3



10 遺跡名 山田遺跡　　所在地 山形県鶴岡市　　古墳時代中期

河川SG7200





1　板状　長187cm　幅7.2cm　厚1.6cm　柾目
7.2～10.4cm間隔で浅い切り込み

2　三角棒状　長58.1cm　幅6cm　厚5.8cm　分割？

3　四角棒状　長114.9cm　幅5.9cm　厚3.4cm　分割？

4　四角棒状　長115.4cm　幅5.2cm　厚4.9cm　分割？